



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(令和4年9月調査分)

《景気の現状判断DI》

	令和4年6月	令和4年9月	前回調査との差
茨城県	55.3	46.0	△9.3
県北地域	52.3	47.7	△4.6
県央地域	56.8	44.6	△12.2
鹿行地域	55.7	45.3	△10.4
県南地域	59.4	46.9	△12.5
県西地域	52.2	45.6	△6.6

《景気の先行き判断DI》

	令和4年6月	令和4年9月	前回調査との差
茨城県	51.7	46.3	△5.4
県北地域	50.5	38.9	△11.6
県央地域	58.5	51.8	△6.7
鹿行地域	50.9	45.3	△5.6
県南地域	53.6	47.8	△5.8
県西地域	44.7	47.4	+2.7

令和4年10月

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	（1）景気の現状判断DI	3
	（2）景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	（1）景気の現状判断DI	5
	（2）景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問合せ先
茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632
公式サイトのURL
[https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/
betsu/bukka/watch/index.html](https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html)

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	38	36	36	36	183
企業関連	製造業、建設業、金融業等	19	17	19	19	19	93
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	282 人	94.0%
県北地域	60 人	54 人	90.0%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	58 人	96.7%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	57 人	95.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和4年9月調査の調査期間は、令和4年9月5日から20日までである。

6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなっ ている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなっ ている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなっ ている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \text{ 点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{ 点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{ 点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{ 点} \times 11.0\%) + (0 \text{ 点} \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

II 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは46.0となった。令和4年6月調査（以下「前回調査」という。）より9.3ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

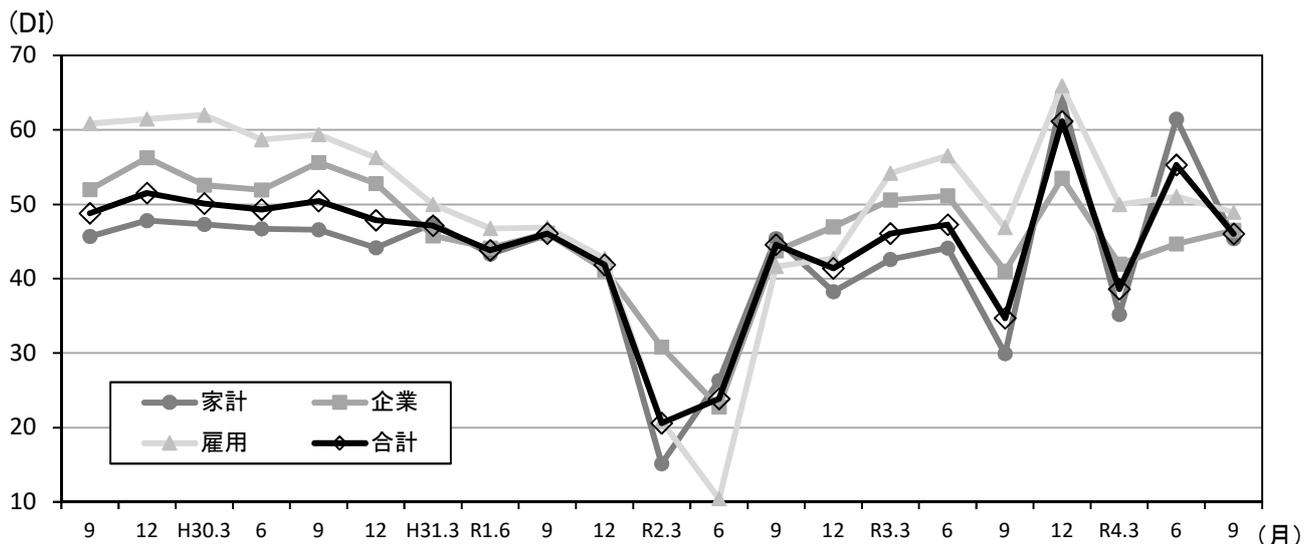
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計		34.7	61.2	38.6	55.3	46.0
家計動向関連		29.9	64.4	35.2	61.5	45.4
小売関連		29.3	53.2	33.6	54.9	40.8
飲食関連		12.5	72.7	27.2	68.8	41.3
サービス関連		33.1	75.4	38.5	67.0	51.6
住宅関連		50.0	46.9	40.6	46.9	36.1
企業動向関連		41.0	53.5	42.0	44.7	46.5
農林水産業		45.8	57.1	34.4	34.4	37.5
製造業		38.5	53.1	41.7	43.1	46.3
非製造業		43.6	53.2	44.1	49.3	49.2
雇用関連		46.9	65.9	50.0	51.0	48.9

表1-2 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	1.4%	14.4%	3.6%	7.1%	3.2%
やや良くなっている	8.9%	38.8%	15.1%	35.7%	20.9%
変わらない	40.5%	29.5%	30.9%	33.2%	40.8%
やや悪くなっている	25.4%	11.5%	32.7%	19.4%	27.0%
悪くなっている	23.7%	5.8%	17.6%	4.6%	8.2%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは46.3となった。前回調査より5.4ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

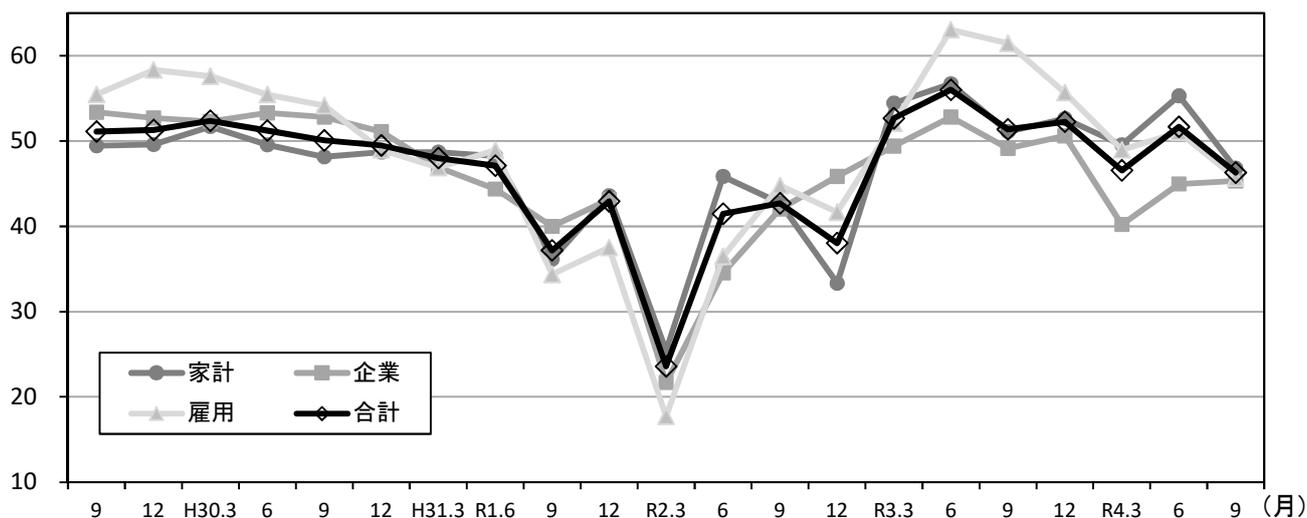
分野	調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計		51.4	52.2	46.6	51.7	46.3
家計動向関連		51.1	52.6	49.5	55.3	46.8
小売関連		48.6	49.6	48.4	47.0	40.4
飲食関連		46.6	58.0	46.6	71.3	52.5
サービス関連		56.8	54.7	52.1	61.0	51.3
住宅関連		33.3	46.9	43.8	31.3	44.4
企業動向関連		49.2	50.6	40.2	44.9	45.3
農林水産業		41.7	50.0	31.3	28.1	34.4
製造業		47.4	48.4	40.0	46.3	48.4
非製造業		52.9	54.0	42.6	47.1	43.5
雇用関連		61.5	55.7	49.0	51.0	45.7

表1-4 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	4.1%	5.0%	2.9%	5.3%	1.1%
やや良くなっている	28.2%	29.5%	25.9%	32.5%	23.0%
変わらない	43.6%	41.7%	36.3%	30.7%	43.6%
やや悪くなっている	17.2%	16.9%	24.5%	26.5%	24.5%
悪くなっている	6.9%	6.8%	10.4%	4.9%	7.8%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移

(DI)



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは47.7となった。前回調査より4.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
分野					
合計	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7
家計動向関連	29.2	68.9	41.1	55.3	49.2
企業動向関連	38.2	53.9	37.5	48.5	47.1
雇用関連	31.3	62.5	37.5	43.8	37.5

表2-2 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	1.7%	10.7%	1.9%	1.9%	3.7%
やや良くなっている	5.1%	48.2%	17.0%	35.2%	20.4%
変わらない	39.0%	28.6%	32.1%	38.9%	44.4%
やや悪くなっている	28.8%	8.9%	35.8%	18.5%	25.9%
悪くなっている	25.4%	3.6%	13.2%	5.6%	5.6%

② 県央地域

景気の現状判断DIは44.6となった。前回調査より12.2ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
分野					
合計	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6
家計動向関連	29.6	70.5	27.7	63.2	44.6
企業動向関連	39.3	51.8	44.6	42.2	42.9
雇用関連	55.0	62.5	50.0	55.0	50.0

表2-4 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	1.8%	19.3%	5.4%	5.1%	3.6%
やや良くなっている	10.5%	40.4%	14.3%	42.4%	17.9%
変わらない	40.4%	26.3%	16.1%	30.5%	41.1%
やや悪くなっている	17.5%	10.5%	39.3%	18.6%	28.6%
悪くなっている	29.8%	3.5%	25.0%	3.4%	8.9%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは45.3となった。前回調査より10.4ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計		38.1	58.5	41.5	55.7	45.3
	家計動向関連	32.9	60.9	36.0	61.4	41.7
	企業動向関連	43.4	52.9	47.1	44.7	50.0
	雇用関連	55.0	62.5	60.0	60.0	56.3

表2-6 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	1.7%	9.4%	5.4%	7.0%	1.7%
やや良くなっている	16.9%	41.5%	16.1%	33.3%	22.4%
変わらない	33.9%	26.4%	26.8%	36.8%	36.2%
やや悪くなっている	27.1%	18.9%	42.9%	21.1%	34.5%
悪くなっている	20.3%	3.8%	8.9%	1.8%	5.2%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは46.9となった。前回調査より12.5ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計		37.5	61.2	39.3	59.4	46.9
	家計動向関連	33.8	62.9	38.3	66.7	47.0
	企業動向関連	40.8	55.6	39.5	50.0	46.1
	雇用関連	50.0	70.0	45.0	45.0	50.0

表2-8 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	1.7%	21.4%	3.6%	16.1%	5.3%
やや良くなっている	5.2%	30.4%	14.3%	28.6%	19.3%
変わらない	48.3%	28.6%	37.5%	33.9%	40.4%
やや悪くなっている	31.0%	10.7%	25.0%	19.6%	28.1%
悪くなっている	13.8%	8.9%	19.6%	1.8%	7.0%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは45.6となった。前回調査より6.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

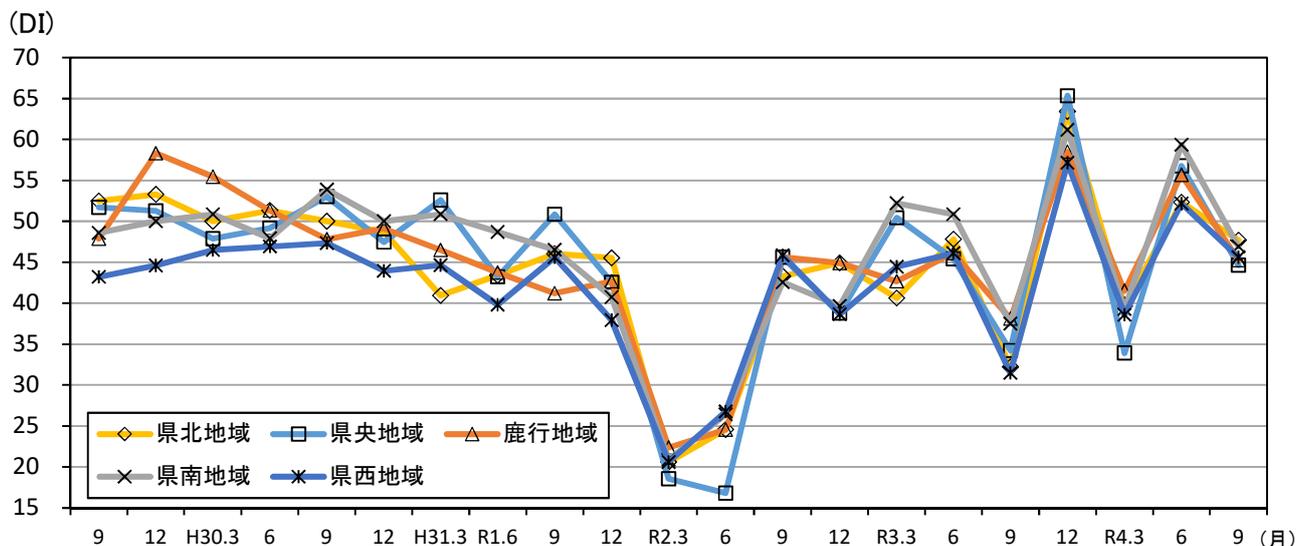
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計		31.5	57.1	38.6	52.2	45.6
家計動向関連		24.3	57.6	34.1	60.6	44.9
企業動向関連		43.1	52.8	42.1	38.2	45.8
雇用関連		40.0	70.0	55.0	50.0	50.0

表2-10 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	0.0%	10.7%	1.8%	5.3%	1.8%
やや良くなっている	6.9%	33.9%	14.0%	38.6%	24.6%
変わらない	41.4%	37.5%	42.1%	26.3%	42.1%
やや悪くなっている	22.4%	8.9%	21.1%	19.3%	17.5%
悪くなっている	29.3%	8.9%	21.1%	10.5%	14.0%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	H29.9	H29.12	H30.3	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月
県全体	48.8	51.5	50.1	49.3	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0
県北	52.5	53.3	50.0	51.3	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7
県央	51.7	51.3	47.9	49.2	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6
鹿行	47.9	58.3	55.5	51.3	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3
県南	48.6	50.0	50.9	47.9	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9
県西	43.2	44.6	46.5	46.9	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6
全国	50.2	52.2	50.4	49.5	47.3	46.5	45.6	44.6	45.0	39.1	14.7	39.0	47.7	35.3	48.5	46.5	42.3	57.5	47.8	52.9	48.4(季節調整値)
	49.6	53.9	51.7	48.2	47.3	48.2	46.7	43.3	45.7	40.7	15.9	38.0	48.7	36.5	49.5	45.4	43.3	58.6	48.9	51.8	49.6(原数値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

景気の先行き判断DIは38.9となった。前回調査より11.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
分野					
合計	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9
家計動向関連	51.4	53.8	46.0	51.5	38.6
企業動向関連	48.7	43.4	37.5	50.0	39.7
雇用関連	50.0	50.0	56.3	43.8	37.5

表2-12 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	3.4%	3.6%	0.0%	7.4%	0.0%
やや良くなっている	27.1%	30.4%	26.4%	33.3%	16.7%
変わらない	40.7%	37.5%	32.1%	20.4%	35.2%
やや悪くなっている	25.4%	19.6%	32.1%	31.5%	35.2%
悪くなっている	3.4%	8.9%	9.4%	7.4%	13.0%

② 県央地域

景気の先行き判断DIは51.8となった。前回調査より6.7ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
分野					
合計	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8
家計動向関連	52.0	56.4	52.7	62.5	52.7
企業動向関連	46.4	50.0	42.9	50.0	50.0
雇用関連	65.0	62.5	40.0	55.0	50.0

表2-14 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	1.8%	12.3%	1.8%	5.1%	0.0%
やや良くなっている	31.6%	28.1%	28.6%	44.1%	33.9%
変わらない	45.6%	35.1%	46.4%	32.2%	41.1%
やや悪くなっている	14.0%	17.5%	10.7%	16.9%	23.2%
悪くなっている	7.0%	7.0%	12.5%	1.7%	1.8%

③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは45.3となった。前回調査より5.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
分野					
合計	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3
家計動向関連	49.3	48.4	50.0	52.3	45.1
企業動向関連	53.9	55.9	44.1	44.7	45.8
雇用関連	60.0	43.8	60.0	65.0	43.8

表2-16 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	5.1%	0.0%	7.1%	1.8%	0.0%
やや良くなっている	30.5%	28.3%	26.8%	35.1%	19.0%
変わらない	35.6%	47.2%	28.6%	29.8%	51.7%
やや悪くなっている	23.7%	22.6%	30.4%	31.6%	20.7%
悪くなっている	5.1%	1.9%	7.1%	1.8%	8.6%

④ 県南地域

景気の先行き判断DIは47.8となった。前回調査より5.8ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
分野					
合計	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8
家計動向関連	57.4	56.1	52.3	61.4	49.2
企業動向関連	48.7	52.8	39.5	44.4	46.1
雇用関連	70.0	60.0	45.0	35.0	45.0

表2-18 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	5.2%	7.1%	5.4%	12.5%	1.8%
やや良くなっている	34.5%	35.7%	25.0%	21.4%	21.1%
変わらない	43.1%	37.5%	30.4%	37.5%	50.9%
やや悪くなっている	12.1%	10.7%	32.1%	25.0%	19.3%
悪くなっている	5.2%	8.9%	7.1%	3.6%	7.0%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは47.4となった。前回調査より2.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

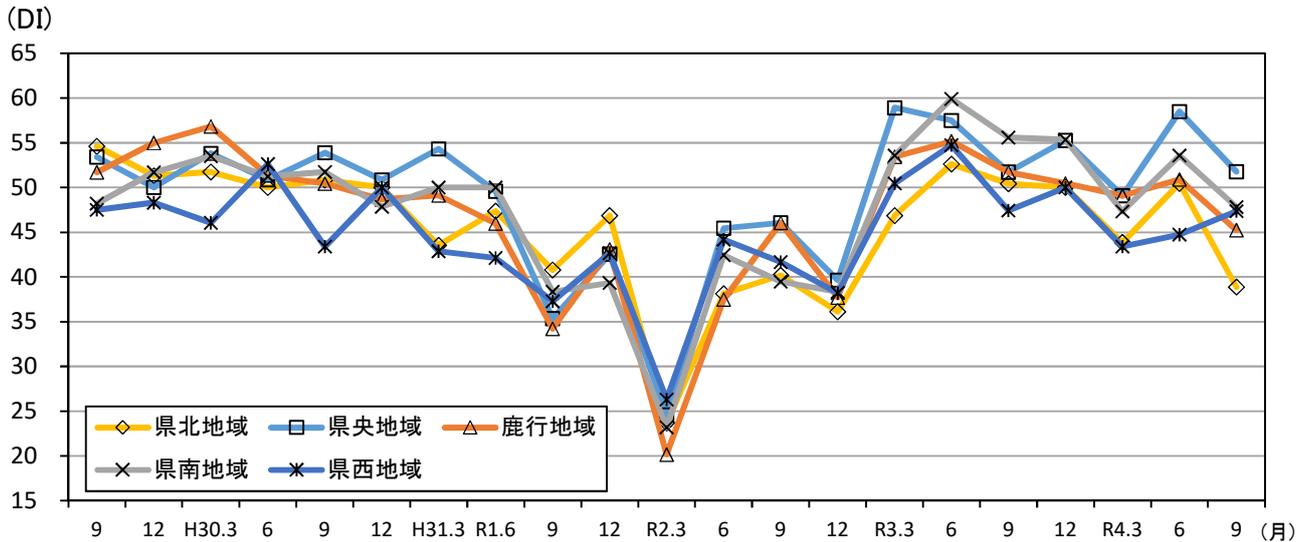
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
合計		47.4	50.0	43.4	44.7	47.4
家計動向関連		45.7	47.7	46.2	47.7	47.8
企業動向関連		47.2	51.4	38.2	36.8	45.8
雇用関連		60.0	60.0	45.0	55.0	50.0

表2-20 回答構成比

	令和3年 9月	令和3年 12月	令和4年 3月	令和4年 6月	令和4年 9月
良くなっている	5.2%	1.8%	0.0%	0.0%	3.5%
やや良くなっている	17.2%	25.0%	22.8%	28.1%	24.6%
変わらない	53.4%	51.8%	43.9%	33.3%	38.6%
やや悪くなっている	10.3%	14.3%	17.5%	28.1%	24.6%
悪くなっている	13.8%	7.1%	15.8%	10.5%	8.8%

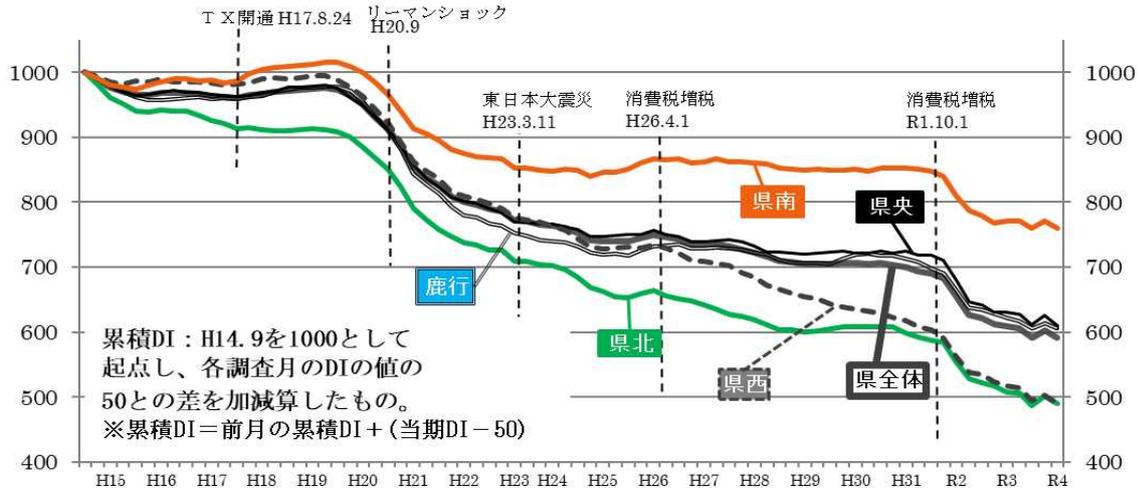
図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	H29.9	H29.12	H30.3	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月
県全体	51.1	51.3	52.4	51.2	50.1	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3
県北	54.6	51.3	51.8	50.0	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9
県央	53.4	50.0	53.8	50.8	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8
鹿行	51.7	55.0	56.8	51.3	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2	43.1	20.2	37.5	46.1	37.7	53.4	55.2	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3
県南	48.2	51.7	53.5	51.3	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8
県西	47.5	48.3	46.1	52.6	43.4	50.0	42.9	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4
全国	51.0 50.4	52.0 51.3	50.9 50.1	50.1 50.9	51.1 50.7	47.7 47.0	49.2 47.9	45.3 46.3	36.8 36.7	45.3 44.5	20.1 18.7	43.5 44.8	47.1 47.1	36.9 36.1	50.2 48.6	51.1 52.6	56.6 56.7	50.3 49.5	50.1 48.4	47.6 49.2	49.2(季節調整値) 49.3(原数値)

(参考) 地域別累積DI

地域別景気ウォッチャー調査累積DI (H14年9月=1000)



III 景気判断コメント — 1 景気現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	コンビニエンスストア	例年、夏は飲料水や冷凍物が良く売れるので、良くなっていると判断した。
		小売業 (酒類)	9月から、地元の買物事業が実施され、事業参加店は扱い商品を3割引で利用者に提供する。今月は久しぶりに販売に期待できるため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業 (食料品)	コロナ禍での行動が緩和され、人の動きが多くなっているため、やや良くなっていると判断した。
		小売業 (弁当・惣菜店)	コロナ禍前とはいかないが、客足は戻ってきていると実感できるため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	コロナ禍やウクライナ、値上げラッシュの中、国民の社会活動が始まり、動き出している。売上げも令和2年以前に戻っているため、やや良くなっていると判断した (令和3年8月20日~9月30日まで全休)。
		観光型ホテル	宿泊客の様子を伺っていると、旅行や観光に対する安心感が、3か月前よりも増しているように感じる。3か月前は心配されていた地元の海水浴場開設も無事に実施され、海水浴を兼ねた宿泊客も増加したため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	人が出歩くようになったため、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	客単価が増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	人の流れが各サービス業に多くなった気がするため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	来場者数の維持 (前年比プラス推移) と先2か月の予約数の増加により、やや良くなっていると判断した。
	企業	製造業 (金属製品)	大手企業が少しずつ動き出しているようなので、やや良くなっていると判断した。
		製造業 (電気機械器具)	取引先のうち1社の今年2~8月の受注高が、昨年度平均の2割弱の受注量だったため、その間は帰休の実施等で運営してきたが、9月に入り、受注高が上向きになったことから、やや良くなっていると判断した。
製造業 (精密機器)		受注が増えてきているが、部品調達にまだ難があるため、やや良くなっていると判断した。	

変わらない	家計	小売業（食料品）	けっして、良くはなっていないため、変わらないと判断した。
		小売業（水産物）	新型コロナウイルスの影響が続いて、外出を控えていると感じるため、変わらないと判断した。
		小売業（時計）	新型コロナウイルスも落ち着いた様子（低発生）と思われるが、いまだにくすぶっているため、変わらないと判断した。
		スナック	週末だけ営業しているが、客は2日で1名とかであるため、変わらないと判断した。
		旅行代理店	学校関係の受注は戻ってきているが、一般団体の受注が戻っていないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	飲食店からの客が増えてこない。物価も上がり、良くなる兆しがないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	特に変化はないため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	来場者数や利用金額に大きな変化は感じないため、変わらないと判断した。
		美容室	売上げが変わらないため、変わらないと判断した。
		設計事務所	人の流れに変化がないため、変わらないと判断した。
	企業	水産業関係者	とくに動きがみられなかったため、変わらないと判断した。
		製造業（化学工業）	原材料や燃料代の高騰が成長の足かせとなっているため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	物価は上昇傾向であるが、まだ家庭に大きな影響を及ぼすほどではないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	2022年3月時点で、液晶・半導体製造装置関連において受注や引合いが増え、派遣社員の増員を行ったが、そこから今回までに特に大きな変動はないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	物量に変化はないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	3か月前とほぼ同様に受注高、生産数を推移しているため、変わらないと判断した。
		建設業	何社かの客の話では、不安要素は多くあるものの、事業計画は進めていくという姿勢なので、さほど変わらないと思うため、変わらないと判断した。
		建設業	事業の内容上、月単位で判断しづらいが、変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルスの影響から機械製造業などは、機械部品やモーターなど製造部品の調達に支障が出ており、納期の大幅な遅れも続いているため、変わらないと判断した。また、ウクライナ情勢の影響から鉄など素材の価格も高止まりしている。
非製造業（その他）		ここ数か月の給与等に変動がないため、変わらないと判断した。コロナ禍で物理的な移動がないので、支出する場面がECサイトくらいになっている。	
雇用	公共職業安定所	前年比で求人も増えているが、求職者も増加傾向にあるため、変わらないと判断した。	
	求人開拓員	求職活動をしている来館者も同じ顔ぶれのため、変わらないと判断した。新規登録する求職者もいなくはないが、コロナ禍前に比べると少ない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	食品の値上げに伴い、ポイントの販促時等での買物をする客が増えている感じがするとともに、値上げで高くなり、良い商品の動きが悪くなってきていることに加え、値引きになる夜の時間帯を待つ客が増えている感じであるため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	物価の上昇による、買上げ点数の減少により、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（食料品）	8月の中旬以降、昨年と比較しても人流が減少傾向であり、客単価も同様の傾向が顕著となりつつある。9月の値上げがこれだけ騒がれているのに、買いだめに関する話題を聞かない。また、原材料等の不足騒ぎにより生じていた事業者の作りだめによる確保の動きが、停滞してきていることから、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	当店は年配者向けの洋品店である。年金が下がり物価上昇の影響を受けている。新型コロナウイルスの影響で外出を控えているので外出着が売れていないため、やや悪くなっていると判断した。今は我慢して通常の営業ができるように願っている。
		自動車販売店	相変わらずのコロナ禍であるが、行動制限がないため、趣味や家族旅行など、今まで我慢してきたことに意識が向き消費、購買活動に変化があったと思われ、悪化とまでは言えないため、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	県民割の影響で宿泊客は増えているが、物価上昇に伴い純利益が下がっているため、やや悪くなっていると判断した。
		ドライブイン	売上げ金額の伸び率は89%、客数の伸び率は93%、客単価の伸び率は102%であったため、やや悪くなっていると判断した。なお、前年比だと売上げ金額の伸び率は113%、客数の伸び率は108%、客単価の伸び率は108%であり、土産品はあまり動かなかった。
		ゴルフ場	判断は難しいが、予約の入りが増えたため、やや悪くなっていると判断した。
		写真店	予約件数の伸びが例年に比べて鈍化しているため、やや悪くなっていると判断した。
		企業	林業関係者
製造業（その他）	私生活ではあらゆる食品・生活雑貨の値上げにより、給与の上昇が見込めない中、厳しさが増している。また会社においても同様に原材料・資材の価格上昇が会社の利益を圧迫しているが、まだ好調な販売を維持しており急激な悪化はないため、やや悪くなっていると判断した。		
不動産業	賃貸でも安い物件を探す客が多く、昨年と比較しても家族向けの物件の動きが少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。		
雇用	求人広告	新型コロナウイルスの感染者数の増減に、依然として影響を受けているため、やや悪くなっていると判断した。	
	学校就業関係者	取引先や、学生等との会話から、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	スーパー	物価上昇の影響もあり、生活防衛が加速し前年の推移と比較して売上げの落ち込みが大きくなっているため、悪くなっていると判断した。売上げも前年比90-95%と伸び悩んでいる。
		観光型ホテル	すべての物が値上がりしているため、悪くなっていると判断した。
企業	製造業（食料品）	消費量減少のため、悪くなっていると判断した。	

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	運輸業	徐々に、顧客製品の出荷台数も増えて来ている。今後良くなる見通しであるため、良くなっていると判断した。
	雇用	公共職業安定所	有効求人数が前年同月比10か月連続でプラスとなっている。また、有効求人倍率が前年同月比15か月連続でプラスとなっているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	客足が回復傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。
		酒・各種商品小売業	行動規制がなかったため、今年の夏は観光客が戻ってきたため、やや良くなっていると判断した。
		小売業	前年比売上げ、客単価ともに改善されてきており、景気はやや良くなってきている感じるため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	コロナ禍前の売上げに少しずつ回復してきたため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	夏休みの時期という事と、感染状況による行動規制がなかったため、客が動いた感じがあるため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	「いば旅あんしん割」など宿泊補助事業があると予約受注が活発になるが、なくなるとまだ弱い状況なので、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	新型コロナウイルスによる規制が徐々に解除になり、旅行へ行く人が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。
		ボウリング場	ここ3か月の前年比が上回ってきたため、やや良くなっていると判断した。
企業	建設業	お盆期間の茨城空港が混雑しており、搭乗率も良くなっていたと聞いたり、仕事の引合いも増加傾向に向いているため、やや良くなっていると判断した。	
雇用	人材派遣業	依然として受注が増えているため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	商店街代表者	これといった変化を感じないため、変わらないと判断した。
		スーパー	客数、単価に変化はないため、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	3か月前くらいから、観光等の外出が増えていると考えられ、客数が回復、現状維持しているため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	売れ筋の商品の価格帯が変化していないため、変わらないと判断した。ギフト商材の動きも順調。
		旅行会社	新型コロナウイルスの第7波が来て、キャンセルが多いため、変わらないと判断した。
		バス運転手	感染拡大の第7波を迎えても、緊急事態宣言等の措置がとられなかったことから、人流に大きな減少は感じられなかったため、変わらないと判断した。
		タクシー会社	売上げが横ばい状態。駅発の営業回数についても大きな増減がないため、変わらないと判断した。
		タクシー会社	昨今の物価上昇に伴い、客の消費力に陰りが見えてきている。5月頃より食料品をはじめとする物の価格が上昇する発表が続いており、消費低迷の大きな要因となっている。現状は、前月、前々月と比較して大きな減少は見られないため、変わらないと判断したが、今後厳しさが増してくるものと考えられる。また、燃料等の高騰による影響も大きく現れると考えられる。客にあつては現行の固定経費等の見直しを行っている声が多くあり、支出を抑える傾向が続くと判断している。
		道の駅	現状で買控えが相当響いていて、総合的に景気は変わっていないため変わらないと判断したが、やや悪くなりつつもあると感じる。
		レジャー施設	新型コロナウイルスの陽性者数の高止まりが続き、外部環境に変化が見られないため、変わらないと判断した。
		レジャー施設	燃料費（仕入単価）が高止まりしている状況であるため、船の出港を控えている利用者も少なくはない。良い状態ではないが、景気は3か月前とあまり変わらないため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	変化は感じられないため、変わらないと判断した。
		理・美容店	当店は、年配客が多いせいか、近くで感染者が増えているせいか、来店を控えている客が多いような気がするため、変わらないと判断した。
		設計事務所	制限は解除され、新型コロナウイルスと共存した状況とはなっているが、依然自粛ムード。街に活気が戻っているとは感じられないため、変わらないと判断した。
		住宅販売会社	円安の影響や原価高騰の影響があり、停滞しているため、変わらないと判断した。
企業	製造業（印刷・同関連業）	前回の調査時にくらべて全体的に動きが感じられるが、まだまだ実績に繋がっていないため、変わらないと判断した。	
	製造業（一般機械器具）	自動車関連の仕事が止まっている。半導体不足、ウクライナ情勢、新型コロナウイルスなど、解消される見込みがないため、変わらないと判断した。	
	製造業（輸送用機械器具）	半導体供給不足、半導体の値上げ、材料市況の高騰、高値継続が予測され、依然として厳しい状況にあり、売上げ並びに業績悪化の懸念継続のため、変わらないと判断した。	
	建設業	変化の兆しがないため、変わらないと判断した。今後落ち込んでいくのか心配。	
	運輸業（道路貨物運送業）	度重なる原料・製品の価格高騰により買いだめと買控えの繰り返しであるが、累計としては例年通りの受注と感じられるため、変わらないと判断した。	
	金融業	3か月前と比較すると、引続き物価上昇傾向のなかでは、景気には大きな変化は見られないと思われるため、変わらないと判断した。特に飲食関係は依然として厳しい状況が続いており、行動制限の緩和がどのような変化を生むか注視する必要がある。	
	情報通信業（情報サービス業）	以前からの計画や継続のもので、今のところ変わらないため、変わらないと判断した。	

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	取り扱う商品の値上げが止まらない。10月からはほとんどの商品が値上げされるため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業	今月は、秋物商戦の本格的なスタート月であり、月初より顧客向け全館催事を立ち上げている。物産展の好調を受け、入店客数が伸長しているが、目的買いの傾向が強く、全館波及効果は薄い。コロナ禍の影響はシニア・シルバー層の来店回復を鈍化させ、滞留時間・客単価も低下している。売上高は、前年比と3か月前(6月)の前年比を比べると、今月の進捗状況が悪化してしていることから、景気はやや悪くなっていると判断した。
		スーパー	物価が高くなっているのに、給料は増えないから辛いという声をよく聞く。還元セールなどのセール企画に、以前よりも敏感になっているようにも感じることから、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	6月より新型コロナウイルスが大幅に増えているためと、円安で値上がりが続いているため、消費者が慎重になっているので、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	円安による物価の高騰やロシア、ウクライナの戦争による原油高騰により、やや悪くなっていると判断した。
		楽器販売	8月は規制のない旅行等が出来るようになったためか、客数の減少が甚だしかったため、やや悪くなっていると判断した。思い起こせば昨年の秋Go To トラベルが再開した頃も、堰を切ったように行楽に流れたためか同じような現象があった。お財布の中身は一定なので、外に出られると、こちらは反動で来なくなる印象。長い目で見ればそれも大事なのだと思う。
		自動車販売店	半導体不足、急激な円安をうけて製品を供給できないことと、客の購買意欲も低下がみられる(今でなくともとか、あきらめ感をよく聞く)ため、やや悪くなっていると判断した。
		割烹料理店	新型コロナウイルスの感染者数が増えたので、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスの影響により、先月と3か月前の前年比を比べると、先月の前年比の伸び率がマイナスになっているため、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー銭湯	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大型連休や土日祝日等での集客に苦戦している。新たに始めたサービスも、入浴料プラスアルファの料金を出し渋る声が聞こえてきた。また、面接をしていますが、生活苦の人を多く見かけるため、やや悪くなっていると判断した。
		写真店	物価高で仕事で使用する価格が上昇しているため、やや悪くなっていると判断した。
		農業関係者	世界情勢により、各資材、原料が高騰しているため、やや悪くなっていると判断した。
企業	不動産業	注文住宅の来場顧客の減少が顕著なため、やや悪くなっていると判断した。分譲事業は平均並みの来客維持。	
雇用	求人広告	物価上昇による仕入れ高騰、積極的な投資をしづらいことなどにより、やや悪くなっていると判断した。	
	学校就業関係者	前回調査以降も日用品の値上げ高騰が継続しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	求人開拓員	9月に入り、直近で当所を利用する求職者の人数が増えているため、やや悪くなっていると判断した。利用者を増やすための特段の働きかけは行っておらず、失業者の増加による影響か。統計データも併せ、引き続き注視が必要。	
悪くなっている	家計	割烹料理店	新型コロナウイルスの影響で、自主的な行動先制限が行われたことで、客足が激減してしまい最悪の売上げになってしまったため、悪くなっていると判断した。
		都市型ホテル	全体的に利用客が減っており、特に宴会が激減しているため、悪くなっていると判断した。会食はできないので、今年はなしとの客が多く、延期する客も多い。
悪くなっている	企業	製造業(食料品)	新型コロナウイルスの第7波および酷暑の影響で、外食系受注の明らかな減少が見られたため、悪くなっていると判断した。
		製造業(窯業・土石製品)	受注が減少しているため、悪くなっていると判断した。
		製造業(精密機械器具)	当社も世界的な電子部品不足に見舞われている。それは主要半導体電子部品とその他汎用電子部品の2系統になる。そのため受注はあれど出荷出来ず、売上げに繋がらず、現状の売上げは低迷しているため、悪くなっていると判断した。

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	道の駅	一般客の来店が増えたため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	コロナ禍ではあるものの、人流制限がなくなり、週末の売上げが昨年より伸びているため、やや良くなっていると判断した。
		洋食食堂	来店客数、売上げとも上向しているため、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	県民割が始まり、旅行の伸びがやや良くなっている。
		都市型ホテル	ビジネス客の利用が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	新型コロナウイルスの感染者は高止まり傾向だが、だいた人が動くようになり、消費が大きくなっていると感じるため、やや良くなっていると判断した。
		理・美容店	インスタなどSNS広告に力を入れていて、新規客が増えているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	製造業（その他）	物は売れているためやや良くなっていると判断したが、原価は上がっていて利益率は下がっている。
		製造業（一般機械器具）	見積り依頼が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（電気機械器具）	新規受注案件があったため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（金属製品）	20%位、受注量が多くなったため、やや良くなっていると判断した。
建設業		受注の増加により、やや良くなっていると判断した。	
不動産業	時期的なところもあるが、客数が増加しているため、やや良くなっていると判断した。		
雇用	人材派遣業	期間限定的な仕事の依頼ではなく、長期的な依頼が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	スーパー	各種値上がりにより客単価は上がっているものの、一人当たりの売上げ点数は減少しているため、変わらないと判断した。
		家電販売店	輸出制限や部品不足等の要因はやや改善傾向であるが、消費の向上までには至っていないため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	コロナ禍の状況が続いているため、変わらないと判断した。感染者が増えれば客も顕著に減る。感染者が減ってきたら少し客が増える。その繰り返し。
		小売業（菓子類）	売上げは、今月と3か月前の対前年比がほぼ同じであるため、変わらないと判断した。
		小売業（薬品店）	売上げ前年比が横ばいであるため、変わらないと判断した。
		割烹料理店	予約が入って来ても、新型コロナウイルスの感染者が増えるとキャンセルになり、客が自粛してしまうので、結局忙しくならないため、変わらないと判断した。
		観光型ホテル	予約の団体数と人員から見ても、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	客層や客足などに変化が見られないため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	入場者数は増加しているが、必要最小限の消費で済ませている客も多く、以前と比べて景気が良くなってきている様子は感じられないため、変わらないと判断した。
	住宅販売会社	目立った変化はないため、変わらないと判断した。	
企業	製造業（食料品）	水産缶詰（サバ、イワシ）の6月と8月の販売金額は、業界統計上比較でほぼ同等であり、対前年同月比では8%位減少していることから、景気は足踏み状態と思われるため、変わらないと判断した。	
	製造業（ゴム製品）	客先からのオーダーから、変わらないと判断した。	
	製造業（鉄鋼業）	特に大きな状況変化は感じていないため、変わらないと判断した。	
	運輸業（道路貨物運送業）	燃料高騰により、かなり経費がかかっているため、変わらないと判断した。	
	運輸業（道路貨物運送業）	前年比による増減は、3か月前と比べるとアップ率としてはやや減少傾向にあるため、変わらないと判断した。	
保険業	米作農家ではコシヒカリ1俵11,000円と昨年と変わらないため、変わらないと判断したが、さつまいも、レンコン、ネギ農家は収入が増えている。		
雇用	公共職業安定所	前年度比で大きく増加していた新規求人数が、ここにきて増加幅が縮小してきているものの、有効求人数は引き続き大きく増加しているため、変わらないと判断した。雇用調整の動きが規模、件数ともに減少傾向にある。	
	学校就業関係者	新型コロナウイルスの感染拡大もピークを過ぎ、求人についても例年並みの求人がきている。ただし、原材料や食品の値上がりが続いており、良くなっているとも言えないと思われるため、変わらないと判断した。	
	求人開拓員	求人更新等の相談において各事業所の担当者が口々に発するのは、依然として変わらぬ物流の悪化・人手不足・品不足である。いつになれば改善されるか見当もつかないとのことであるため、変わらないと判断した。	

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	当会窓口への問合せ等から、資金需要についての内容が増加してきている。また、円安や物価高の影響によるガソリン価格、生活関連、食品関連等についても（事業・家計）支出が収入を上回る構図により、厳しい状況が続いていると感じているためやや悪くなっていると判断した。
		スーパー	商品の価格が上がっているため、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	来店客数が減っているため、やや悪くなっていると判断した。鹿行地域の他店舗でも同様の動きが見られる。また、競合他社による影響が考えられる。
		コンビニエンスストア	自店周辺の人の動きや、自動車(国道124号)の交通量が減っていて、客数が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	物価の上昇が一般家庭に響いているため、やや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	メロンの時期が終わり、来客人数が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（薬品店）	毎回変わらないが、新型コロナウイルスの流行で、お年寄りの受診抑制があり、患者の伸びがない。また、受診回数を減らすため、処方箋も長期投与が進んでおり、患者さんが減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（書店）	物価高のため購入を控えている感じがするので、やや悪くなっていると判断した。
		和食レストラン	人流は増加したものの、円安と物価上昇に伴う影響により、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	3か月前と比較しても、予約人数等もあまり変化が見られないため、あまり変わらないと感じる。しかし、食材等の仕入れなどの観点から見ると、海鮮食材の価格高騰により、予約を中止せざるを得ないという現状もあるため、やや悪くなっていると判断した。
		運転代行	3か月前（6月頃）と比較して売上げが下がっているため、景気はやや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	だんだんと景気が悪くなってきているように思うため、やや悪くなっていると判断した。待機時間が長く、1日の売上げも減少している。人は動いているが財布の紐が固い。新型コロナウイルスの影響も大きいが何とかしないと死活問題になりかねない状況だ。
		クリーニング店	1日の量が減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		住宅販売会社	新築の問合せなし、リフォームの問合せのみ増えている状況であるため、やや悪くなっていると判断した。
企業	農業関係者	原材料の高騰で、肥料等が大幅に値上がりし、農業経費が増加しているが、農産物の販売単価には結びつかない状況なので、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（食料品）	円安やウクライナ侵略などで、原材料高。また、原油高による経費高、利益減となっている。その上、客は物価高で可処分所得の減少。購買力に力がない。当然、売上げが減少しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	建設業	新型コロナウイルスの影響で生活習慣の変化があり、外食をする人が減った。建設物価の上昇で、新築の住宅や外構工事の発注が減っているため、やや悪くなっていると判断した。	
	金融業	飲食業及びサービス業においては、新型コロナウイルスの予防徹底から客足は戻りつつあるものの、物価等高騰により利幅は縮小傾向。建設業に関しても、従業員の新型コロナウイルス感染に伴う受注工事延期等による売上げ低下及び仕入値増加等により、資金繰りを圧迫している状況であるため、やや悪くなっていると判断した。	
	サービス業	例年、6月以降に受注が増える傾向ではあるが、今年は昨年に比べても発注、引合が少なく動きが鈍いと感じるため、やや悪くなっていると判断した。現時点では、国際情勢の動向（ウクライナ、円安、半導体等）を観察しているようであり、しばらくは我慢が続くものと考えている。	
	サービス業（会計事務所）	新型コロナウイルスの感染拡大及び燃料費等値上がりが続いているため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	小売業（食品）	今年は7月20日がワカサギの解禁日だったが、全くの不漁で市場の出荷ができなかったため、悪くなっていると判断した。
		小売業	いろいろな物やサービス、エネルギー等値上がりしているものが多く、個人・企業共に景況感が悪化していると思う。
		日本料理店	毎日新型コロナウイルスや値上げなど、景気マイナスの話以外聞かず、景気は悪くなる一方かと思うため、やや悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	小売業	3年振りに行動制限のない夏となり、概ね通常の経済活動に戻っている。施設売上げも3か月連続で前年を超え、特に8月期は3か月前比12ポイント上昇、入館数も同様となる。コロナ禍前の2019年比でも90%後半まで回復しているため、良くなっていると判断した。円安等による値上げが話題になっているが、客単価は大きく変動していない。集客イベント等に対する客からの慎重な声は少なく、一部の旅行関連業種を除き、コロナ禍前の状況に戻っている。
		和食食堂	大人数の会食や家族連れの来店が増えている。アルコールも出始め、一組の売上げ単価が上がってきていることから、現在の景気は良くなっていると判断した。
		テーマパーク職員	6月の前年比は落ち込んでいる事に対し、今月の前年比は上がっているため、総合的にみると、3か月前よりも景気は良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	衣料品販売店	客の顔色が明るくなって、やる気があるように見えるのでやや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	ウィズコロナ化が進んで予約状況が多くなってきている。価格上昇より開催を積極的に進めている個人客、企業も多くなっているため、やや良くなっていると判断した。但し、ウエディングは人数での開催は少なく、家族婚が主となる。
		タクシー運転手	前年比で較べると、人の動きが以前より活発になっていることから、売上げの上昇が見て取れるため、やや良くなっていると判断した。
		サービスエリア	行動制限が特にならないこともあり、夏の繁忙期には観光利用の客、学生の団体利用等が多数見られたため、やや良くなっていると判断した。ただし、人の動きは活発になったが、コロナ禍前の水準に戻ったわけではなく、今後の推移は不明。
		ゴルフ場	前年比でも来場者、売上げとも増加している。予約状況も好調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	新型コロナウイルスの感染者は多数との報道はあるが、行動制限がない日常となり、業務用を中心に注文は増えている。来店での買物客が増えた。久しくなかった醤油蔵見学もある。売上げは増えている。マイナス要因として光熱費（固定費）の増加はあるが、やや良くなっている状態にあると判断した。
		製造業（飲料）	新型コロナウイルスの状況がやや良くなっている傾向からか、人の流れが多いように感じるため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（非鉄金属）	半導体不足で生産調整が続いていたが、受注量が増加してきているため、やや良くなっていると判断した。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大により完全に回復しているとは言えない。
		建設業	3か月前は前年度と比較しても受注工事が少なく、自社の作業場や倉庫の塗装や修繕が多かった。今月は順調に工事受注があるので、景気はやや良くなっていると判断した。
	雇用	民間職業紹介業	取引先の景気が改善しているため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	家計	スーパー	一品単価は上がっているが、その分、買上点数が減ってしまっているため、変わらないと判断した。
		スーパー	客数、売上げともに大きな変化がないため、変わらないと判断した。
		スーパー	9月度前年比は客数100.1%と客数好調も、客単価は96.7%と6月度から横ばいとなっているため、変わらないと判断した。
		小売業（生花店）	高齢により、同業他者が廃業するなどの要因から、一部で売上げの改善がみられるが、業務用需要の増加は見られないため、変わらないと判断した。
		小売業（米穀）	行動制限は解除されたが、第7波の新型コロナウイルス感染拡大が、今まで以上に身近に感じて、皆神経を尖らせているため、変わらないと判断した。
		都市型ホテル	原材料の値上げが続いて、利益率が下がってしまい、客が増えても横ばい程度か少し減少してしまっているため、変わらないと判断した。今後、様々な値上げを検討していくところとなる。
		都市型ホテル	宿泊施設にとっては、コロナ禍といえども客足は前回の頃から戻って来ているため、変わらないと判断した。感染が強い割に、重症化リスクが少ないためだろう。また、企業にとってはコロナ禍だからといって、いつまでものんびりしていられないといった感じで通常業務に戻したことが、宿泊施設の稼働UPに繋がっていると思われる。
		タクシー運転手	夜の客の戻りが少ないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	売上げ的にも横ばい。人の動きもおおよそ変っていない。
		タクシー運転手	コロナ禍の状況の中で、感染者は多少減少したが、まだまだ安心できる状況ではない。乗客数（特に酔客）が増えないと、景気が上向きだとは言えないため、変わらないと判断した。
		ボウリング場	3か月前には新型コロナウイルスも落ち着いてきて景気回復の兆しが見えたが、第7波の影響で景気は横ばいになっているように感じるため、変わらないと判断した。

変わらない	企業	農業関係者	昨年、米価が大幅に下落し、本年度はその回復に期待が持たれたが、それ以上の回復が見込まれなかった。また、円安をはじめ、現在の海外情勢から資材等価格上昇が認められ、経営に与える影響は大きなものになってくると思われるが、現状としては3か月前と比較し景気自体は変わらないと思われる。
		農業関係者	9月期（初旬まで）の来客数・客単価を6月期と比較すると、両者ともほぼ変わりはない。これは毎年の傾向である。前年比でも、ほぼ変わりはないため、変わらないと判断した。
		製造業（その他）	仕事の注文はあるが、なかなか働く人がいないので、注文を受けられないため、変わらないと判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注は順調に推移しているが、原材料高騰分が予想を上回っているため、変わらないと判断した。製品価格に転嫁を図っているが、製品価格に転嫁するまでのタイムラグが大きい。
		製造業（一般機械器具）	特に変化はなかったため、変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向に転じ、経済活動も優先的に再開、人流も戻りつつあるが限定的である。円安、資源高、物流停滞等持続しており、総体的には変わっていないと感じられるため、変わらないと判断した。
		不動産業	県南の不動産取引は今のところ順調のため、変わらないと判断した。
雇用	求人広告	取引先も売上げが良くならず、残念な声が多いため、変わらないと判断した。	
	公共職業安定所	新規求人数は増加傾向にあり、生活関連サービス業等、一部の産業では求人は増えているが、製造業等では未だコロナ禍の影響により休業している企業もあるため、変わらないと判断した。	
	学校就業関係者	業務の関係から、学生への求人からの判断となるが、3か月前と比較しても、変わらず求人があるため、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	家電販売店	コロナ対策制限がより緩和されてきて、金の使いどころが増えたことで、バラつきが出てきていると思うが、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	買上げ点数の減少により、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	物価上昇で買控えているため、やや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	売上げ、客数とも前年より減ってきているため、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	ゴルフ場の料金そのものは、実際は通年通り変わっていない。ただ、ガス、電気、燃料費（ガソリン、軽油）等、営業していく上で、ベースになる必要な物が急に値上げを続けている。3か月前と比べ、明らかに状況は悪いので、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	来場者数に減少が見られるため、やや悪くなっていると判断した。
		理・美容店	動員が少ないため、やや悪くなっていると判断した。
		住宅販売会社	物価高と新型コロナウイルスの第7波により、客がやや減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		企業	製造業（窯業・土石製品）
製造業（食料品）	売上げ単価は変わらないが、客数が3か月前より減少しているため、やや悪くなっていると判断した。		
製造業（印刷・同関連業）	仕入れ価格、燃料費など上昇が続いているため、やや悪くなっていると判断した。		
製造業（窯業・土石製品）	円安、物価上昇により、やや悪くなっていると判断した。		
建設業	資材関係高騰による受注難のため、やや悪くなっていると判断した。		
不動産業	集客の減少と物件の減少により、やや悪くなっていると判断した。		
運輸業（倉庫業）	貨物の動きが以前よりも低調になっているため、やや悪くなっていると判断した。		
雇用	求人開拓員		前回の調査から、客の肌感覚で「景気はあまり宜しくない」とヒアリングした。7月末に就職面接会があり、参加企業からの意見としては、「現在は在庫で価格を抑えているが、徐々に新規契約分の原材料が入ってくるため価格ミックスで徐々に上がっているこれを同価格に転嫁するかが難しくなっている」との意見と、7月1669品目、8月2493品目、9月2423品目の商品値上げが続くので、これを見ると景況感はいえられない(商品値上げ品目は帝国データバンクより)。
悪	家計	日本料理店	前年度比よりも悪くなっている。
		スナック	新型コロナウイルスの感染者が過去最高になった事が影響しているのか、今までになく客数は減少しているため、悪くなっていると判断した。
		タクシー会社	タクシーチケットの使用が減っているため、悪くなっていると判断した。
		設計事務所	新型コロナウイルスのため、休みが多くなり客の年収も減っている。また、工事原価が値上りし、粗利が取れなくなっているため、悪くなっていると判断した。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	食堂	多くの人が、コロナ禍前と同じような生活に戻ってきているように感じるため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業（酒類）	ウイズコロナで動くしかなない状況の中で、少しずつ売上げは回復してきているため、やや良くなっていると判断した。しかし、まだまだ本来の動きに戻るのには、時間もかかりそうだ。新型コロナウイルスばかりではなく、様々な身の回り品の値上げによって、嗜好品は買控えもおきているかと思われる。
		日本料理店	土・日・祝日の来客が増えてきて、ランチタイムは80%以上戻ったためやや良くなっていると判断したが、平日は厳しい状況が続いている。10月の予約が入り始めた。
		道の駅	客の利用する単価が上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	客数の増加傾向のため、回復傾向と感ずることから、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	県民割や外出時のマスク着用緩和など、行動規制が緩和された事で、今まで自粛していたゴルファーが動き出すと思うので、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	これまでの新型コロナウイルスの影響等による売上げの減少がだいぶ回復してきたため、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	人の出が増え、来館者数が増え、それに伴い売上げも増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
		理・美容店	新型コロナウイルスにも、さほどの違和感も感じなくなっているのかもしれないため、やや良くなっていると判断した。
		クリーニング店	2019年の水準にはまだまだであるが、2020年、2021年の同期間対比でみるとゆるやかに上がっているため、やや良くなっていると判断した。ただ楽観視はしていない。
		企業	企業
製造業（窯業・土石製品）	為替相場の円安と、中国のゼロコロナ政策のため、日本国内の石材加工メーカーにメリットがあり、その分価格競争で若干受注できるので、現時点では想定以上に発注があるため、やや良くなっていると判断した。		
製造業（金属製品）	得意先からの発注件数、引合件数共に単純に増加しているため、やや良くなっていると判断した。ただし、継続性があるかどうかは不透明である。		
不動産業	家賃が上昇しているため、やや良くなっていると判断した。		
サービス業（コンサル/外業）	最近の飲食店では少し客足が戻ってきたように思えるので、やや良くなっていると判断した。		
変わらない	家計	コンビニエンスストア	天候に恵まれたのは良かったが、スーパーマーケットがリニューアルオープンしたため、変わらないと判断した。
		衣料品販売店	学生用品以外の来客が期待できないので、変わらないと判断した。
		家電販売店	3か月前と比べ来店客数はほぼ変わらないため、変わらないと判断した。週末は若干、客足が減っているが、原因は、新型コロナウイルスの制限が緩和したことで、レジャー等に分散したためだと思う。トータル的な消費量はほとんど変わっていないように感じる。
		農産物直売所	行動制限のないお盆等があったため、店舗売上げが一時的に伸びたが、その他は変わらないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	これまで同じような感じがするため、変わらないと判断した。
		タクシー会社	変化を感じないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	日中の動きは3か月前よりは出てきているように感じるが、夕方から夜は人の動きがないため、変わらないと判断した。
		道の駅	新型コロナウイルスの感染再拡大のあおりを受けて減少傾向にあるが、長期休暇等があり、一部の期間に客足が増加しており、トータルで変わらないと思うため、変わらないと判断した。
		商店街代表者	7月～9月は新型コロナウイルスが増加し、影響が継続したため、変わらないと判断した。
		設計事務所	なんでも値上がりでまいったとよく耳にする。この状況は変わっていないため、変わらないと判断した。
設計事務所	特に変化が見られないため、変わらないと判断した。		

変わらない	企業	畜産業関係者	現状情勢に変わりがないため、変わらないと判断した。
		農業関係者	青果物の販売については、新型コロナウイルスの影響で外国人技能実習生の受入状況の不透明感から、作付面積の減少による取扱数量の減少、販売高が低迷している。また、ウクライナの情勢により、原油や生産資材価格が高騰しており、それが販売高に転嫁させていないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	原材料、仕入れ部品の値上がりが依然として続いており、リードタイムも不透明で変わっていないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	職場からの増員要請は落ち着いている状況にあることから、変わらないと判断した。
		建設業	公共工事の発注が多く出て来ているが、資材の高騰が進んでいるため、景気は変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルスの流行となるも、飲食業は予想より落ち込みはなかったが、原材料費の仕入高値は維持されており、全体としては景気は変わらない状況にあると判断した。
雇用	人材派遣業	人材の募集が増えてないため、変わらないと判断した。	
	求人広告	何かと物価の値上がりが続いている上、来月以降も大幅な値上げや最低賃金の改定も控えており、好転する要素が思い当たらないため、変わらないと判断した。	
	学校就業関係者	企業からの求人数は昨年と同じようであるため、変わらないと判断した。	
	求人開拓員	徐々にコロナショック前の生活様式に戻りつつある。事業所の求人状況、求職相談者の状況を見ていると特徴的な変化が見られないため、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	円安、世界情勢、コロナ禍、どれをとっても明るい条件はなく、店の売上げも右肩下がりのため、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	物価高の影響により、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	コロナ禍において人流が増えた状況は続いているものの、物価高騰による買控えが増えているように思うので、やや悪くなっていると判断した。
		自動車販売店	円安の影響もあり、食品や燃料など全ての品目が上がっている。さらに、製造業では仕事がなくなり収入が減っているようなので、やや悪くなっていると判断した。
		メガネ・時計販売店	周辺小売店が概して、まちが静かで商売が厳しいとの話になるため、やや悪くなっていると判断した。
		レストラン	コロナ禍における人数制限がなくなったり、酒の提供ができるようになったのはありがたいが、6名から8名位のグループの食事会や、団体の歓送迎会などのイベントが全くなく、売上げが伸びないため、やや悪くなっていると判断した。現在の物価高や電力やガスの値上がりが店を圧迫する。
		旅行代理店	物価が上がりがつあるため、やや悪くなっていると判断した。買物はできるだけ控えているが、洗剤など何もかもが内容量が少なく同値段とか、10～20円値上げされている物もある。旅行に誘っても、新型コロナウイルスがこわいと言いつつながら、本当の気持ちは金を使いたくないと聞いた。景気は下がるばかりだと思う。
企業	製造業（窯業・土石製品）	物価高騰や円安が進んでいる中で、なかなか値上げも出来ないが、消費も減ってきているとの事であった（梱包資材業者）ため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（化学工業）	メインの中国市況悪化により、半導体関連材料が在庫調整局面のためやや悪くなっていると判断した。	
悪くなっている	家計	スーパー	値上げにより、商品単価が上がっているため、客の来店頻度が減少しているため、悪くなっていると判断した。購買金額のコントロールをしていると考えられる。
		製茶販売	以前より増して、消費者の生活が苦しくなり、入る分の金は減るし、出す分の金は増えている（値上げ）。当店で販売している商品も、今までと同じ金額よりランクを下げて、安い方を買っているように思うため、悪くなっていると判断した。
		和食レストラン	円安、物価高、原料費の値上げ、また新型コロナウイルスの感染者が増えたため、悪くなっていると判断した。
		都市型ホテル	7月19日以降の新型コロナウイルスの感染者の急激な増加により、キャンセルが発生し、売上げが減少したため、悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	自粛要請がない分、新型コロナウイルスの感染者が今までになく多くなっているため、皆が危機感を持って、自己管理しているようだ。地元のスーパーが閉店すると聞く。安いことで評判の店で、さみしさを感じると共に、さらに不安を隠せない。安くしてもだめなのかと思う。客は動かない。安売り合戦をするから、閉店となる。補助金もなくなった今、どうして存続しているか。明日は我が身かと思う。これで景気が良くなっているとは思えないため悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	電気料金、材料、ガソリン料金が上がり、コストを圧迫しているため、悪くなっていると判断した。
製造業（金属製品）	理由は分からないが、毎年この時期の受注が少ないため悪くなっていると判断した。		

III 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 東北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	小売業（食料品）	コロナ禍の行動緩和で、人の動きがより活発になりそうなので、やや良くなっていると判断する。
		小売業（弁当・惣菜店）	新型コロナウイルスの感染者も緩やかではあるが、減少している。この安心感の中から需要は伸びると期待していることから、やや良くなっていると判断する。
		小売業（時計）	状況の変化（世の中の物の考え方）が、今までより上昇ムードになっていくと思われるため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	予約も増え、団体も入りだしたため、やや良くなっていると判断する。観光地に赴いたがどこに行っても、人出が多く消費意欲も高まっているようだった。
		観光型ホテル	コロナ感染者と濃厚接触者の待機期間等が見直されており、行動制限が緩和されることが予想されるため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	いば旅あんしん割に続き、全国旅行支援の開始見込み（都内からの受入れ）、インバウンドの規制緩和（アジアからの誘客）また依然として疎を求める利用客の受注により、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	業界的にトップシーズンとなるので、新型コロナウイルスの再拡大などがなければ今月より良くなっていると思うため、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（電気機械器具）	取引先のうち1社が、今年の9月から少しずつ生産高上昇の計画が見えてきているため、やや良くなっていると判断する。他の取引先の受注量は変わらない。
		製造業（電気機械器具）	第三クオーターにかけて、中国向けの製品が増産傾向にあるため、やや良くなっていると判断する。
	変わらない	家計	衣料品販売店
スナック			カラオケ屋や、よその店舗の話を書くに良くないらしいため、変わらないと判断する。
旅行代理店			やはり一般団体が新型コロナウイルスを心配、状況を見ながらの状態は変わらず、良くなる要因がないため、変わらないと判断する。
タクシー運転手			行楽時期も終わり、新規客は見込めないため、変わらないと判断する。
タクシー運転手			円安、金利問題、客から聞いた話などを合わせて、まだまだ戻ってこないと思われるため、変わらないと判断する。
タクシー運転手			コロナ禍で寒い季節になってくるため、変わらないと判断する。
ゴルフ場			国の政策で、全国旅行支援が後押しするため、変わらないと判断する。
設計事務所		新型コロナウイルスの流行により、変わらないと判断する。	
企業	水産業関係者	自粛ムードの緩和による良い雰囲気もあるが、円安の物価高騰による悪い雰囲気も感じられるため、変わらないと判断する。	
	製造業（金属製品）	先行きは見えないが、落ち込むことはないだろうと予測しているため、変わらないと判断する。	
	製造業（電気機械器具）	特に変わらない状況が当面続く見込みであるため、変わらないと判断する。	
	製造業（精密機器）	受注状況は好調であるが、エネルギー、電力の値上げが負担となってきているため、変わらないと判断する。	
	製造業（その他）	私生活においてもまた会社においても食品・生活用品、原材料等の価格高止まりは続くと考えるが、現状の収入、会社の販売状況が続けば景況感は維持されることが考えられるため、変わらないと判断する。しかし、その間、更なる外的要因（災害・紛争等）があれば一転する可能性がある。	
	金融業	新型コロナウイルス、ウクライナ情勢、円安の影響など引続き先行き不透明感は拭えない状況であり、景気は変わらないものと判断する。	
	非製造業（その他）	受発注状況は、例年と変わらない状況のため、変わらないと判断する。	
雇用	求人広告	一時的な変化はあっても大きな流れは変わらないと感じるため、変わらないと判断する。	
	公共職業安定所	3か月先くらいでは、変わらないと判断するが、政府のコロナ禍対策によって、大きく左右される。	
	求人开拓員	年末に向けての3か月であるため、景気は良くなって欲しいが、現在の来館者の動向を見ている限り、期待は出来ないため、変わらないと判断する。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	10月からの食品（酒・飲料）の値上げや、6月に比べて9月の客数が微減していることから、今後も厳しいと感じられるため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（食料品）	新型コロナウイルスによる制限はないが、自主的に抑制している感が顕著となるのではないかと。特に、企業による、行動の抑制の地域社会への影響は大きい。一定数動いていた高齢者も減少し、高齢者世帯への来訪を自粛する傾向が顕著になる可能性が高い。値上げに踏み切れない中小零細企業も、これだけ長期化したら値上げに踏み切る可能性が高いのではないかと。売上減少により、事業者の作りだめにキャンセルが出始めている。以上より、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（食料品）	新型コロナウイルス次第だが、資材等が値上がりしてきている状況のため、やや悪くなっていると判断した。
		自動車販売店	円安、ウクライナ問題等により原材料価格が高騰し、様々なものが値上げになり、生活維持が優先になったことで、高額の出費になる物の消費活動は鈍くなると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	10月より扱い商品がほとんど値上がりし、今までになく厳しくなると思うので、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（水産物）	物価高騰の影響で、購買意欲が低下するように感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		観光型ホテル	いば旅あんしん割の影響で宿泊客は増えているが、物価上昇に伴い純利益が下がっている。さらに物価は値上がりする予想が発表されているため、やや悪くなっていると判断する。
		ドライブイン	最低賃金の引き上げが、物価の上昇に追いつかない気がする。生活必需品やガソリン、電気代は上がったままで、引き締めて最低限のものを選択して工夫しているため、やや悪くなっていると判断する。
		レジャー施設	物価の上昇と比べ、賃上げが追いついていないと感じ、可処分所得が減少すると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	家庭内において物価高が影響し、娯楽は制限されると思うため、やや悪くなっていると判断する。
		ボウリング場	電気代、人件費、仕入れ等の経費が今以上にかかるため、やや悪くなっていると判断する。
		写真店	仕入れ業者からの値上げの通知が相次いでいて、これから価格への転嫁を検討する必要があるが、客がより価格の上昇に敏感で、客単価に影響がでけると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
企業	林業関係者	例年この時期から活発的な動きがある中、現在は通常の動きに留まり、好転する気配がみられないため、やや悪くなっていると判断する。多種にわたり物価の上昇が止まらないなか、人員不足も重なり今後が不安。	
	製造業（化学工業）	製品価格にコストを転嫁することが、ますます困難になると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。特に円安。	
	製造業（電気機械器具）	他国の金利上昇と共に円安が加速し、物価が更に上昇傾向になると考えられ、家庭の収支に影響が出てくるため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（電気機械器具）	物量のずれ込みにより、やや悪くなっていると判断する。	
	建設業	普段仕事で接する人の話から、物価上昇に対する不安感が強くなっているため、やや悪くなっていると判断する。	
	建設業	物価上昇の影響により、やや悪くなっていると判断する。	
	不動産業	物価が高騰し、毎月かかる固定費である家賃を下げる傾向があり、景気はやや悪くなっていると判断する。	
悪くなっている	家計	スーパー	最低賃金の改定があり所得が約3%増える見込みだが、かといって消費が増えるわけではないと予測しており、また、水道光熱費の高騰が大きく影響していることから、悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	円安、ドル高による物価上昇により、客数、客単価減少になる予測があり消費が減少するため、悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	季節的に売上げが下がるので悪くなっていると判断する。
		観光型ホテル	すべての物が値上がりしているため、悪くなっていると判断する。
		美容室	アメリカが景気後退し、インフレになるため悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（食料品）	製品価格の値上げが相次ぎ、消費マインドが冷え込むため、悪くなっていると判断する。
雇用	学校就業関係者	取引先や、学生等との会話から、悪くなっていると判断する。	

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	小売業	3か月先の12月は、お歳暮・クリスマス・年末年始と歳末商戦のピークを迎え、ギフト・自家需ともに期待出来る最大の売上げ確保月である。新型コロナウイルス新種株出現による、感染拡大/行動制限の再発・円安続伸/原油高/ウクライナ危機に起因する物価上昇により激変することも想定されるが、僱事期・オケージョンに絡む消費マインドの改善により、来店客数増に繋がると想定されることから、景気はやや良くなっていると判断する。
		小売業	売上げ、客単価が以前より改善された状態がしばらくは続くと思われるため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	イベント等なども再開してきているため、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	そろそろ新型コロナウイルスの影響が少なくなると思うので、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	新型コロナウイルス自体の危うさがなくなってきたそうなので、やや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	法人や団体客も動き始めており、多少なりの改善要素を感じるため、やや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	現在、忘年会等を仮予約で検討の客が多いが、今月よりは回復し、希望も含めてやや良くなっていると予想する。しかし、今後の新型コロナウイルスの状況により大きく変わるかもしれない。
		旅行代理店	さらに新型コロナウイルスによる規制が解除になり、経済活動は活発になるが、円安やウクライナ情勢など、不安要素もあり、一気にはならないと思うので、やや良くなっていると判断する。
		バス運転手	この夏、感染者数が過去最高を記録しながらも、一定程度、人の動きはあった。第7波での感染者数が下降傾向を示してきており、学校関係を中心に貸切バス利用の受注も入っているため、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	このところの原油高騰により、客単価や利益率は減少傾向にあるが、3か月先は新型コロナウイルスの感染者数も落ち着きを見せると予想されることから、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	第7波のピークアウトが見込まれ、外部環境も良くなることが予想されるためやや良くなっていると判断する。昨年度も実施された補助制度（Go To トラベル、いば旅あんしん割等）が継続されると、周辺施設も活性化されると思われる。
		スーパー銭湯	感染拡大が収まり始めているので期待しているため、やや良くなっていると判断する。
		ボウリング場	昨年末からの前年比が上向きなため、やや良くなっていると判断する。
		理・美容店	気持ちを込めて、年末の忙しさが戻ってくることを期待したいことから、やや良くなっていると判断する。
		企業	企業
製造業(窯業・土石製品)	工事が受注できそうなので、やや良くなっていると判断する。		
製造業(精密機械器具)	電子部品商社責任者との度重なる打ち合わせにおいて、改善の傾向に向かっているようなので、時期は明確ではないが、年内には修復かと推察されるためやや良くなっていると判断する。		
雇用	雇用	人材派遣業	しばらくは求人依頼が続くそうなので、やや良くなっていると判断する。
		公共職業安定所	新規求人数が増加傾向であるため、やや良くなっていると判断する(ただしその勢いは鈍化傾向)。令和4年6月前年比+10.9%、令和4年7月前年比+7.9%、令和4年8月前年比+2.4%。
変わらない	家計	商店街代表者	新型コロナウイルスの第7波も下火になった感はあるが、終息といえる状況までにはいたらない。また、商品の値上げも続いており、半年前に比較し2割増しも珍しくなく、これでは景気が良くなるとは思えないため、変わらないと判断する。
		商店街代表者	電気料金・ガソリン価格の値上り、急激な円安、商品の値上げといった消費者の不安要素が解消されないため、変わらないと判断する。
		スーパー	客単価が減って、嗜好品などはなるべく買わない客が増えているように感じる。3か月後は年末だが、去年よりシビアになるように思うため、変わらないと判断する。
		スーパー	今の状況が当分の間続くと思うため、変わらないと判断する。
		スーパー	行動規制がない分、人の動きはあるが、電気代の値上がり、物価の高騰などが家計を圧迫しているため、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	伸長要因がないため、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの状況はさらに緩和していくことが見込まれるが、既に行楽等一定の人出はあり、周辺環境に大きな変化はなく、現状の状況が継続すると考えられるため、変わらないと判断する。
		酒・各種商品小売業	個人観光客は戻ってきたが、まだ団体での行動、宴会とか観光バスツアーがほぼない状態なので、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	新型コロナウイルスの感染状況によるが、感染拡大期における影響は昨年と比べ和らいでいるものの、それでも感染が拡大すれば「集客」や「事業運営」に影響を来すので、現在と変わらないと判断する。
		旅行会社	予約状況は良いが、新型コロナウイルスで、いつキャンセルになるかわからないため、変わらないと判断する。
		タクシー会社	行動規制がないので、人流に大きな変化があるとは思えないが、現時点で増加傾向に転じる要因も思い当たらないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	ゴルフニーズの高まりと物価高のマイナス影響で、現状とあまり変わらないと判断する。
設計事務所	夏のイベントも自粛傾向にあって、盛り上がりには欠けているようだ。依然として大半の人がマスクを付けている。マスクなしの時が景気の上向き時と思える。しかし、冬に向ってもマスクとの付き合いは続くであろうことから、変わらないと判断する。		

変わらない	企業	製造業（印刷・同関連業）	動きがあり売上げ等も上がってきているが、その分資材等の高騰の影響があるため変わらないと判断する。
		製造業（一般機械器具）	半導体不足や戦争の長期化など良いニュースが少ないため、変わらないと判断する。
		製造業（輸送用機械器具）	円安継続、原油価格の高値継続、更にはウクライナ情勢悪化に伴う更なる材料高騰並びに部材供給逼迫懸念が払拭されておらず、依然として国内外の景気は好転の兆しが見えてこないため、変わらないと判断する。
		製造業（精密機器）	景気を変える要素が、景気を変えるほどの力がないと思うので、変わらないと判断する。
		建設業	現状維持が続くと思うため、変わらないと判断する。ただし、外国からの入国制限が緩和されると観光業、飲食業等を中心に景気が回復傾向になると思う。
		運輸業	顧客製品の出荷台数は、現状とそれほど変わらない状況であるため、変わらないと判断する。
		金融業	多種多様な業種が混在している地域だが、飲食業・小売業を生業とする先は多く、これまで新型コロナウイルスの感染防止対策の緩和時においても、客足の回復には至っていない事も鑑み、全体的な景気回復には至らないと思われるため、変わらないと判断する。
		情報通信業（情報サービス業）	様々な不安要素（新型コロナウイルス・ウクライナ問題・エネルギー問題・原材料高・物価高・半導体不足・人材不足等）があり、半年、1年先には影響していくと思われるが、3か月先は想定内で推移すると思うため、変わらないと判断する。
雇用	求人開拓員	9月に増加した求職者の水準がそのまま続くか否かの見極めが必要であるが、横ばいは考えられるものの、増加傾向が続くとは考えにくいので、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	商品の値上げが購買意欲を減少させるのは目に見えている。当然、食品にもプレキがかかるため、やや悪くなっていると判断する。
		楽器販売	手取りの増えない物価高の折、高額でしかも趣味性の高い商品は一番に買控えられるのが常。しばらくは厳しい状況が続くそうなので、やや悪くなっていると判断する。
		自動車販売店	半導体不足、円安、原材料、製品の値上げ等々による影響の改善が見込めないため、やや悪くなっていると判断する。
		農産物直売所	包装資材等の値上りから、売価も上げざるを得なくなっているため、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー会社	現実として物の値上げが実施され、目に見える形として客の負担増となってくる。収入と支出のバランスが崩れつつあり、最低限の生活に支障がない程度の支出に抑える傾向が増加すると考えている。景気の流れは人の動向に大きく左右される。企業収益も燃料高騰や半導体問題などの要因により、厳しい状況に陥ると考えられる。そこに一般消費者の買控え、無駄レス、我慢生活が追い打ちをかけるため、やや悪くなっていると判断する。
		道の駅	物価の上昇が重しで、必要以上購入しないのと、節約志向が強く買控えが続くと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		写真店	コロナ禍での影響がまだまだ続きそうで仕事のキャンセルも増えそうだ。物価上昇で今後も更に厳しくなりそうなので、やや悪くなっていると判断する。
		住宅販売会社	銀行金利が上がると景気が落ち込んでいくと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
企業	建設業	世間の空気に躍動感が全く観られないため、やや悪くなっていると判断する。	
	運輸業（道路貨物運送業）	今までは生産を止めることがなかったため、製品の受注は安定していたが、輸出入の船舶の遅延による原料不足や在庫過多に伴い、生産調整を行う荷主が出てくると思われるため、やや悪くなっていると判断する。	
	不動産業	建築業界は、木材費の高騰の他、住宅設備関係の値上げも相次いでおり、価格に転嫁せざるを得なくなっている。トップメーカーは、高値で売れていると思われるが、中堅メーカーは顧客の予算が伸びているわけではなく、厳しい状況。分譲事業も価格転嫁の限界が近づいている感があるため、やや悪くなっていると判断する。	
雇用	求人広告	悪い状況はすぐには変わらないと思うため、やや悪くなっていると判断する。	
	学校就業関係者	世界情勢の悪化に対する影響を受ける時期が業種により異なり、さらなる長期化が想定されるのではないかと思うので、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	レジャー施設	更なる物価上昇、仕入値上昇の流れがあることから、今後3か月は景気回復見込めないと思われるため、悪くなっていると判断する。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	スーパー	年末商戦の時期でもあるので、来店客数、買上点数が増えるため、やや良くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	旅行に行く人達が増えると考えられるため、やや良くなっていると判断する。
		小売業	今現在の景気がとても悪いので、3か月後は良くなってほしいという希望も含めてやや良くなっていると判断する。そのためにも新型コロナウイルスの流行も収まり、一人一人の行範囲を広げてほしい。物価の高騰も落ち着いてほしい。
		洋食食堂	新型コロナウイルスの感染者数が下がっていくと思う。そのことにより外食の機会も少しずつ増えると思うので、やや良くなっていると判断する。
		運転代行	3か月先、忘年会シーズンでもあり、人の動きも増えるのではないかと思うため、景気はやや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	新型コロナウイルスの影響でキャンセルが増えない限り大丈夫だと思うため、やや良くなっていると判断する。
		道の駅	一般客の来店が増えると考えられるので、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（食料品）	新型コロナウイルスの感染者数減少と、海外観光客の入国枠拡大により、経済活動が活発化し急激な為替円安効果も重なることで、景気浮揚につながるのではないかとと思うので、やや良くなっていると判断する。
		製造業（電気機械器具）	別の新規受注案件開始予定のため、やや良くなっていると判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	良くなっている事を期待したいため、やや良くなっていると判断するが、現状は厳しいかもしれない。
雇用	人材派遣業	企業からの依頼についても、3か月先での依頼が増えてきているため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	商店街代表者	新型コロナウイルスへの感染は、かなり身近なものになってしまったと感じる。感染対策と行動制限は、今後も緩和されながらも、継続されていくのではと考えており、この先も円安、物価高、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化等の影響も継続していると思われるため、変わらないと判断する。
		スーパー	ロシアのウクライナ侵攻による穀物価格の上昇等を背景とした食品の値上げが今後も続くことが予想されるため、変わらないと判断する。
		家電販売店	輸出制限や部品不足等の要因が改善されて、消費が上向きになっても、客の動向が家電商品へ大きく傾く事は難しく、現状通り平坦に進むと思われるため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	今までも、コロナ過の状況で感染者が増えれば客も顕著に減り、感染者が減ってきたら少し客が増えることが繰り返されていることから、変わらないと判断する。
		小売業（薬品店）	新型コロナウイルスの流行で、お年寄りの受診抑制があり、患者の伸びがない。また、受診回数を減らすため、処方箋も長期投与が進んでおり、患者さんが減っているのは変わらないため、変わらないと判断する。
		小売業（食品）	これまでどおりの悪い状況に変わりはないと判断する。
		割烹料理店	新型コロナウイルスの感染者が増減するたびに振り回されて、協力金もないので非常に厳しい状況は変わらないと判断する。
		観光型ホテル	3か月先あまり変化がないと考える。ただ、いば旅あんしん割やGo To トラベルなどのキャンペーンが終了したら、景気がやや悪くなるのではと考える。
		旅行代理店	変わらないと判断するが、新型コロナウイルスが落ち着いてきてくれば、旅行業界も活性化するのではないかと。
		ゴルフ場	物価高騰など生活に不可欠な部分の混乱はあるものの、新型コロナウイルスなどによる人流に影響がなければ、さほどの変化は感じられないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	変わらないと判断するが、物価高騰の影響を受け、レジャーに対する消費が控えられる可能性がある。
		レジャー施設	人の動きは活発になり消費が進むが、原油高、物価高等の影響が大きく、景気は変わらないと判断する。
		理・美容店	売上げが伸びていくことが予想できるため、変わらないと判断する。新型コロナウイルスが近所で増えているが、客は減っていない。新メニューをSNSで発信したところ、反応が良く、単価アップにつながった。客の話では、出かける人も多いようだ。
		住宅販売会社	新築が苦戦しているため、変わらないと判断する。モデルハウスを検討中である。
		住宅販売会社	変化がないため、変わらないと判断する。
企業	製造業（その他）	コロナ禍前の水準にほぼ戻った。原価高で物価高なので、これ以上ものは売れなくなっていくと思うため、変わらないと判断する。	
	製造業（食料品）	3か月では景気上昇は考えにくいと判断する。原材料高や経費高により、販売価格を上げざるを得ない。しかし、客の財布の紐は固い。	
	製造業（ゴム製品）	客先より3か月オーダーの見込みを頂いているため、変わらないと判断する。	
	製造業（鉄鋼業）	環境変化の予兆は感じ取れていないため、変わらないと判断する。	
	製造業（金属製品）	大幅な受注量は認められないため、変わらないと判断する。	
	建設業	円安の増長により、変わらないと判断する。	
	建設業	全体的な要素変更がないために変わらないと思う。	
	運輸業（道路貨物運送業）	現状の状態が続くと感じるため、変わらないと判断する。	
	保険業	新型コロナウイルスの発生で支払いがあったが、営業件数には変化はないため、変わらないと判断する。	
雇用	公共職業安定所	原材料費、物価の高騰の影響が景気にブレーキをかけている状況があるものの、求人状況は引き続き堅調に推移すると思われるため、変わらないと判断する。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	今後も値上げが続くと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		衣料品販売店	物価がどこまで上がるか不透明な状況。先行きが不安でしかないため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（菓子類）	原材料の価格が上昇して商品の価格を上げざるを得ない。また、消費が落ち込み景気はやや悪くなると思う。
		小売業（薬品店）	物価上昇の影響が出てきて、売上げが下がると思われるので、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	仕事がだんだんと減少しているため、やや悪くなっていると判断する。給料は歩合制のため生活に響く。将来的に考えると、頭が痛くなるが何とかしないと将来性がない。作業改善等を行い、景気に強い業界にしないと将来生き残れない。
	企業	金融業	コンビナートの定修工事も終了したことで建設業の工事受注減少が予想され、更に今後も物価高による仕入値・燃料費等増加は続くものと思慮し、業況の厳しい中小企業や個人事業主が増えていくものと判断するため、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	今月が良くなっている分3か月先は落ち着いていると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		サービス業	一部の客では、円安によって利益が増えているケースもあるが、全体観としては受注が減少して苦勞している様子が伺えるため、やや悪くなっていると判断する。
		サービス業（会計事務所）	新型コロナウイルスの次の感染拡大の波が予想されること及び燃料費や原材料等の更なる値上がりが続いているため、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	学校就業関係者	材料費が値上がりしている。このまま値上がりが続いては家計が苦しくなり、景気は悪くなると思うため、やや悪くなっていると判断する。
求人開拓員		事務所での職業相談はもとより、各市町村への出張相談で気になることは、相談者の年齢の高齢化や各種の助成金制度の利用者の増加である。この傾向はこれから年末等にかけても、変わらないであろうことから、やや悪くなっていると判断する。	
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	物価高騰による買控えや、外食の回数も減るため、悪くなっていると判断する。
		小売業（書店）	資源高が続くようだと売上げ減、経費増でかなり悪化すると予想する。
		日本料理店	海外の支援などのニュースは入ってきているが、日本の経済は動かす政策をしているのが見えないので、悪くなっていると判断する。
		クリーニング店	暇な時期に入っていくので、悪くなっていると判断する。
企業	農業関係者	円安、ウクライナ等の問題で、原材料の高騰は先が見えない状況が続いているので、農業経費の増加が止まらない。そのため農業所得の増加には繋がらないと思われるので、悪くなっていると判断する。	

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	都市型ホテル	政府から発表のあった全国旅行支援に期待し、販売するチャンネルを増やし、売上げアップを目指す。我々の観光業界自体は、景気が良くなることが予想される。
やや良くなっている	家計	家電販売店	消費者の生活様式が普通に戻れば、通年のように変化していくと考えるため、やや良くなっていると判断する。
		小売業	新型コロナウイルスの感染状況に加え、電力不足や物価上昇による影響はあると予測されるが、来館見合わせや消費自粛にはつながらないと思われる。インフルエンザとの併発による大流行等が心配されるが、再度行動制限が発せられない限り、通常の消費活動が見込まれる。客自身で新型コロナウイルス対策を心掛けながら、通常の買物やサービス利用は継続して上向くと感じるため、やや良くなっていると判断する。
		スナック	新型コロナウイルスの感染者は減少して客数の戻りは少しはあると思うが、酒類など物価全般の値上がりもあり、景気は少しよくなる程度だと思う。
		タクシー運転手	ウィズコロナも浸透してきて、イベントや旅行など人が出る機会が増えているため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	予約状況が好調なこと、コンペ等の申込が例年よりも早く、かつ料金も高め設定が可能となっているため、やや良くなっていると判断する。
		ボウリング場	間もなく新型コロナウイルスの第7波が落ち着いて、新たな波が来るまで僅かに景気は回復しそうであるため、やや良くなっていると判断する。
		住宅販売会社	新型コロナウイルスの第7波が、3か月後にはピークアウトしていると考えてるので、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（食料品）	年末に向けて業者向けの委託商品の製造が始まる。これは例年の事なので売上げが確定されている。小売（客）は回復傾向だが先行きは不透明なので横ばいかもれない。事業者向け入札が取れる事を想定すれば、上向き角度が上がる。そうでない場合と光熱費の推移がどの程度になるかが懸念材料だが、この場合の上向き角度が下がったとしても、総じてやや良くなっていると判断する。
		製造業（食料品）	新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の現状について、まだ到達していないが、終わりが視野に入ってきたといわれ、多少よくなると思うため、やや良くなっていると判断する。
		製造業（非鉄金属）	特殊要因がなければ良くなると思われるため、やや良くなっていると判断するが、先行き不透明であり何とも言えない。
		不動産業	少しずつ売却案件が増えてきたため、やや良くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	最低時給が上がる影響で個人の収入の増加が見込めるため、やや良くなっていると判断する。
	変わらない	家計	スーパー
小売業（生花店）			燃料費・電気料金の高騰などが、販売経費の増加につながっている。燃料費の高騰が、生産農家の暖房費への影響が考えられ、仕入単価の上昇が予想されるので変わらないと判断する。
衣料品販売店			変わらないと判断する。新型コロナウイルスの終息、ウクライナの終戦。その時代、時代に問題が多すぎる。
小売業（米穀）			新型コロナウイルスの感染拡大が身近に感じ、神経を尖らせることが続くように思うため、変わらないと判断する。
和食食堂			物価・燃料価格の上昇が継続されると考えるため、変わらないと判断する。個人消費が抑えられるとともに、企業の費用も上がり、値段に反映されると今と変わらないか、少し落ち込むとも予想される。
都市型ホテル			宿泊・宴会のオンハンド状況より現在と変わらないと思える。予約も昨年より良いが、コロナ禍前までには中々戻れない。アクションプランなどの集客の仕掛けも大事であるが、まずは安心して開催できる環境が相変わらずメインとなる。
都市型ホテル			日本の中小企業は外国と比べて軟弱で足腰が弱いようだ。だから、現在の円安に歯止めが掛からないのだろう。諸外国に比べ、まだまだ労働賃金が安く、今後の景気は現状維持というのが精一杯なのではないだろうと判断する。
タクシー運転手			夜の客が戻ることが考えられないため、変わらないと判断する。
タクシー運転手			毎日数万人が感染している状況が改善されない限り、良くなることは難しいと思うため、変わらないと判断する。
タクシー運転手			リモートが根付いてきており、現状のまま続くのではないかと判断をしている。
タクシー会社		このままの状態が続きそうである。イベントは中止になっているが、気にせず出かけている人もいるため、変わらないと判断する。	
サービスエリア		新型コロナウイルスによる経済への影響からは徐々に回復しているようには感じるが、一方で諸々の理由による物価高もより顕著になっている。3か月で大きな動きがあるかはわからないが、目に見えて景気が良くなる要素も見当たらないため、変わらないと判断する。	
ゴルフ場		今の状況が変わるといふ要素が見当たらない。食品の高騰も続いている。良い物が他国に輸入され、日本に回って来なくなっている。残念ながら、変わらないと思われる。	
テーマパーク職員	現状変わる要素があまり見当たらないため、変わらないと判断する。		
レジャー施設	変化するような要因がないと考えられるため、変わらないと判断する。		

変わらない	企業	農業関係者	今後の景気回復の要素が見当たらないため、変わらないと判断する。
		製造業（飲料）	まだ感染状況が安定しないことから、3か月先も変わらないと判断する。
		製造業（印刷・関連業）	変わらないと判断する。新型コロナウイルス対策としての行動規制や、企業・団体の様々な事業の自粛などが次第に緩和されることを期待している。
		製造業（その他）	材料費の高騰。人件費を上げないと人が集まらない。製造業は特に人の集まりが悪いので、注文をたくさん受けることができない状況は変わらないと判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	原材料価格のさらなる値上げが予想されるため、変わらないと判断する。
		製造業（一般機械器具）	変わるような材料がないため、変わらないと判断する。
		建設業	12月は年末なので工事量が多いのは毎年のことである。このところ建設資材の値上げが多くなってきているので、見積り単価に反映させている。工事見積りも順調に多くなってきており、今後、値上げが増えてきたとしても、景気は今までと変わらないと判断する。
		運輸業（倉庫業）	今後の予定を鑑みても、好調になる貨物の気配が感じられないため、変わらないと判断する。
	金融業	新型コロナウイルスの感染者数が減少するも、ウクライナ情勢不安定は払拭されず長期化しており、円安、インフレ基調等の不安材料を抱え、好転材料乏しく、状況は変わらないと判断する。	
	雇用	民間職業紹介業	製造業は回復傾向にあるが、半導体不足等で生産量が上がらないため、変わらないと判断する。
公共職業安定所		新型コロナウイルスの感染者数の変動や円安による物価高騰の影響など、先行き不透明のため、変わらないと判断する。	
学校就業関係者		業務の関係から、学生への求人からの判断となるが、3か月先も同じくらいの求人が見込まれるため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	さらなる物価上昇により、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	商品の値上げラッシュが続き、購買意欲が減ってきているように思うので、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	一番の影響は、今後ますます物価高が加速し、消費動向は冷え込むと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	贅沢しなくなる家庭が増えて、貯蓄にまわす人が増えるため、やや悪くなっていると判断する。
		農産物直売所	年末商戦は一番販売高が多い時期であるが、客数の減少は止められないと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		理・美容店	全体的な物価上昇により消費者は節約に入り、消費は落ち込むと思うので、やや悪くなっていると判断する。
		理・美容店	物価が上がっているため、やや悪くなっていると判断する。
		設計事務所	フラット35の仕様が温暖化防止のため、より断熱性能等を高めるために工事原価が上がり、低所得者では建築できなくなっているため、やや悪くなっていると判断する。
企業	農業関係者	現在の海外情勢から国内の情勢を鑑みると、金利・円安をはじめ、成長に著しい懸念が抱かれる。各業界でも物価の上昇が認められ、家計および農業経営に与える影響は大きく、消費の低迷が懸念され、景気好転とは言い難いと思われるため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（窯業・土石製品）	企業業績低下による所得減により、やや悪くなっていると判断する。	
	不動産業	物価高の影響は出てくると思うので、やや悪くなっていると判断する。	
家計	日本料理店	利益率は、ロスがあるので減少している。悪くなっていると判断する。	
	製造業（窯業・土石製品）	円安により仕入れが値上りするため、悪くなっていると判断する。	
企業	建設業	資材関係高騰による受注難のため、悪くなっていると判断する。	
	雇用	求人開拓員	10月～12月についても、景気は良くならないと考えるため、悪くなっていると判断する。企業のヒアリングからも、商品値上げ10月6532品目と続く模様であり、今までは原油と小麦分これからは円安分140円以上が転化されてくるので良い要素はないと思う。米国との金利差、為替2022年1月114円/ドル・2022年9月5日140円/ドル、米国は金利を2.25%～2.5%にしようとしているので日本との金利差で円売りドル買いをするため、円は上がらない。（日本は国債の金利負担で金利を上げられない。）

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	食堂	新型コロナウイルスの脅威が、多くの人達の気持ちから薄れて来ている。感染が再拡大しても重症化のリスクが低くなっているため、インフルエンザと同じような感覚になっており、自粛をする気持ちにはならないのではないだろうかと感じるため、良くなっていると判断する。	
		企業	製造業（金属製品）	良くなるとしか答えたくない。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	年末に向け、消費購買意欲に期待するため、やや良くなっていると判断する。	
		日本料理店	集客が見込めそうであるためやや良くなっていると判断するが、原材料、輸送コスト高で利幅は多くは見込めない。	
		タクシー運転手	客数が少し増加しているような気がするので、やや良くなっていると判断する。	
		タクシー運転手	夜の人の動きが多少なりとも、良くなってくるのを期待するため、やや良くなっていると判断する。	
		道の駅	全国旅行支援が始まって、関東以外の客が動きだせば、客足が増えるのではないかと思うので、やや良くなっていると判断する。	
		ゴルフ場	ゴルフ全般的に会員権も好調なので、景気は上向きだと考える。また、インバウンドや海外往来等の緩和もあり、やや上向きになると思うため、やや良くなっていると判断する。	
		理・美容店	忙しくなってきたという話が多く聞かれる。新型コロナウイルスもあまり意識していないような感じもするため、やや良くなっていると判断する。	
		商店街代表者	9月下旬頃から、新型コロナウイルスの感染者数も減少傾向になり、全国的に外出・旅行等をする人口が増加しているため、やや良くなっていると判断する。	
		クリーニング店	4月以降ゆるやかな回復が続いているので希望も含めて、やや良くなっていると判断する。	
		企業	製造業（金属製品）	例年通りなら3か月先には、回復しているはずだと思うため、やや良くなっていると判断する。
不動産業	売買物件のうち高額物件の問合せが増えているため、やや良くなっていると判断する。			
サービス業（コンサルタント業）	新型コロナウイルス次第だが、消費が伸びるのではないと思うので、やや良くなっていると判断する。			
雇用	人材派遣業	飲食店や旅行会社は忙しくなってきたという情報があり、景気回復の兆しがあると感じるため、やや良くなっていると判断する。		
変わらない	家計	コンビニエンスストア	このまま続くような気がするため、変わらないと判断する。	
		衣料品販売店	学生用品以外の来客が期待できないので、変わらないと判断する。	
		家電販売店	家電の買換え時の予算は、依然として節約傾向の客が多く、物価上昇も止まらない状況を踏まえると、消費行動は貯蓄傾向が続くと思うため、変わらないと判断する。	
		農産物直売所	引き続き新型コロナウイルスの影響により、客足は増えたり減ったり一進一退の状況が続くそう。そのような状況の中、景気が大幅に変動するとは思えないため、変わらないと判断する。	
		メガネ・時計販売店	諸物価の値上がりが続く、給与が上がる話を聞かないため、変わらないと判断する。	
		和食レストラン	新型コロナウイルスの終息もわからないし、先行きも不明なので、変わらないと判断する。	
		タクシー会社	新型コロナウイルスの影響が読めないため、変わらないと判断する。	
		道の駅	今後の値上げ状況を考えると鈍化すると考えられるため、変わらないと判断する。	
		ゴルフ場	3か月後の客数の傾向は平年並みの横ばいのため、変化はないと判断する。	
		レジャー施設	原油価格の上昇による様々な価格の上昇がある中で、根本的な景気回復は見込めないとされるため、変わらないと判断する。	
		設計事務所	なんでも値上がりでまいったとよく耳にする。この状況は変わらないだろう。	
		企業	製造業（電気機械器具）	原材料、仕入れ部品のリードタイムの不透明感から厚めの手配となり、受注増となっているが、部材の入りも悪いので、状況は変わらないと判断する。
			製造業（化学工業）	半導体需要在庫調整局面が継続するため、変わらないと判断する。
製造業（金属製品）	変わらないと判断するが、先行きが不透明である。			
製造業（電気機械器具）	中・長期的な予測は難しいが、現在の状況が継続すると見込んでいるため、変わらないと判断する。			
建設業	燃料や資材の高騰により、工事の利益率は減少傾向になり、3か月先もこの傾向は続くと思うので、変わらないと判断する。			
金融業	原材料費の高値は維持されており、今後においても変化なく推移すると思慮され、運送業・建築業等の利益の改善は見込まれないため、変わらないと判断する。			
雇用	人材派遣業	今現在で人材の依頼がないため、変わらないと判断する。		
	求人広告	しばらくは様子見をする時期が続く、消費者の金の動きはあまり変わらないのではないかと予想するため、変わらないと判断する。		
	学校就業関係者	特段良くなる要因がないため、変わらないと判断する。		

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	今の状況を引きずってこのまま悪くなっていくと思うため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	物価高の影響により、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	10月からさらなる商品の値上げ（酒、タバコ、加工食品など）があり、今よりも買控えが想定されるため、やや悪くなっていると判断する。
		自動車販売店	末端の製造業の景気が戻らないと、製品化されない。我々の業種に反映されるのは早くても、半年から1年はかかると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	値上げを見越して、飲食店も含めて今月は買置きをする客が多く、来月以降の売上げはだいぶ下がると見込まれるため、やや悪くなっていると判断する。3か月後は年末商戦の時期だが、財布の紐は硬いかと思われる。
		レジャー施設	円安の影響が、消費行動にも反映してきたり、金利の上昇があり得るので、やや悪くなっていると判断する。
		設計事務所	円高で市場がどう反応するかわからないが、円安が工事費高騰の大きい要因と考えるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	畜産業関係者	円安などの状況を加味して、やや悪くなっていると判断する。
		農業関係者	引き続き、ウクライナ情勢の悪化が続けば、さらなる原油や生産資材価格高騰が続くと考えるため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	物価高騰や円安が改善する見通しがないので、やや悪くなっていると判断する。
製造業（印刷・同関連業）		原油高、為替の円安が続き、さらに電気料金、材料の高騰が続く感じがするため、やや悪くなっていると判断する。	
雇用	求人開拓員	御先の間屋、商社、小売店等から、年々注文を取ることが厳しく、難しくなっていると耳にするため、やや悪くなっていると判断する。	
悪くなっている	家計	スーパー	食品、飲料、ガソリン等ほとんどすべての物価が、6月に比べてさらに上がっている。ますます家計を圧迫すると考えられるため、やや悪くなっていると判断する。
		製茶販売	円安が進んでおり、様々な商品の値上げが毎日のようにあるため、悪くなっていると判断する。よくなる要素がないため、悪くなっていると判断する。円安、戦争、我々の努力で変わらないことが原因だ。オリンピックも期待するほどではなかった。
		都市型ホテル	新型コロナウイルスによる外部要因が大きすぎて、企業努力でなんとかできるものではないと感じるため悪くなっていると判断する。国、県が何も対策を講じなければ、悪くなるだけである。政治家が考えている以上に、現実には厳しい。
		観光型ホテル	今現在、先がまったく見通せない。テレビなどでは、旅行などで人が動いている様子を見ているが、後になって、感染者数が増えてくるのだろうとまた心配している。自粛要請がされる状況になると思っているが、自粛要請が出て、補助金が出ない場合、倒産、閉店はますます増えると思うため悪くなっていると判断する。自粛要請が出たら、当社も閉店となるだろう。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	商品棚から商品を取るときは、奥からなるべく日付の新しい商品を選ぶ客が増えている。また、食品の値上げにより無駄をなくすため、メモを見ながら購入する客が増えている。
	スーパー	不景気の影響で、同業他社の改装計画や補修計画が先延ばしになっていることを度々耳にするようになった。
	コンビニエンスストア	買上げ点数が低下している。
	小売業（食料品）	賃金が上がっても手取りは増えないことに、多くの人が気付き始めている。補助金頼りの中小零細企業が、補助事業の中止をせざるを得なくなったなど、根を上げ始めている。
	小売業（弁当・惣菜店）	新型コロナウイルスの影響は、客足よりもスタッフやスタッフの家族の感染による人手不足のほうが、大きなものとなっている。身近な話題としては、あまり深刻なものではなくなってきた。それよりも、物価の高騰や人件費のことが話題になりやすい。また、この数年のキャッシュレスの流れの中で普及がかなり進み、対応要望も増えてきた(当店では現金のみの対応となっている)。商品の価格、人件費、レジの対応などが今後の課題。
	衣料品販売店	新型コロナウイルスの影響で、買物も一人で来店する方が多いように感じられる。
	小売業（水産物）	新型コロナウイルス、物価高騰等、じわじわとしわ寄せが消費者にも企業にも押し寄せて、不景気な話題ばかり耳にする。
	小売業（時計）	9月4・5日の動きがたいへん悪かった。
	スナック	昼間の飲食店や、居酒屋は元に戻りつつあるように思う。
	日本料理店	9月には、夜の食事会の申し込みが1件あった（通常、昼のみ営業）。
	観光型ホテル	今後、景気は良くなると思う。
	観光型ホテル	宿泊業に限っては全国旅行支援が注目されているが、全体的には景気は悪くなるだろう。
	観光型ホテル	去年は中止になっていたイベント等が、今年は開催されることが多く感じられ、旅行や会食の機運も高まると思われる。
	ドライブイン	地域のプレミアム商品券は、とても効果がある。
	レジャー施設	ガソリン価格の高騰が続いているためか、ガソリンスタンドが明らかに以前より空いている状況が見受けられる。
	ゴルフ場	独身者は金を使うようになったと思う。
ゴルフ場	ガソリンでも日常の買物でも、節約が見受けられる。自分もそうである。	
ゴルフ場	ガス料金が、為替の影響を受けつつも下落傾向。インバウンド（韓国）からの使節団の受入れ。4月～8月累計で水光熱プラス食材原価が客当たり400円強増。宿泊助成（いば旅あんしん割）があるから現状吸収しているが、なればどうなることか。	
写真店	余計なものは購入しなくなった。よりお得感を打出すキャンペーン等が目立つようになってきた。	
美容室	インフレによる物価高により、財布が圧迫される。	
企業	林業関係者	県北においては、町の新庁舎完成に伴い、業界の大きな話題となっていることは間違いない。それに付随する見学者等の取り込みや、林業についてのマスコミへの広報活動などで局所的ではあるが期待している。
	製造業（化学工業）	電子帳簿保存やインボイスについて、システムを導入する検討をしているが、このような制度対応投資も景気に逆行するのではないかと考える。
	製造業（金属製品）	周りの町工場も少しづつ受注が増えているようだ。
	製造業（電気機械器具）	大型発電機、大型変圧器に使用する絶縁物の加工を主とする業務を行っているが、取引先の国内向け、海外向けの受注にたいへん関心がある所である。
	製造業（電気機械器具）	ガソリン価格が高止まりし、食品や消耗品等が値上りし、家計に厳しい状況である。自家用車を注文しているが、納期延長の連絡があった。
	製造業（電気機械器具）	景気は変わらないものの、物価高騰で打撃を感じる。
	製造業（電気機械器具）	部品、材料の入手困難や高騰が収まらず、先行き不安な状況は続く。そんな中、海外で生産していた製品を、国内でも生産できるよう、BCPがらみでの動きが見られる。
	製造業（精密機器）	エネルギー、電力の価格が高止まりしている。
	製造業（その他）	新型コロナウイルスが蔓延する中ではあるが、行動制限がないことによって街に人が戻りつつある。また祭りやイベントも徐々に復活しており、ようやく人らしい生活になってきている。感染症対策をしっかりとやりながら完全復活を目指すべきと思う。街の活気が景気回復の原動力になると考えている。
	金融業	中小事業者において、材料や燃料費高騰などに対し価格転嫁できない状況が見受けられる。
雇用	学校就業関係者	円安による物価上昇への懸念。ウクライナ情勢による原油価格の上昇への懸念。
	求人开拓員	隣の空き地では家の新築中であり、駅の新築工事も最終段階のようだ。身の回りが賑やかになっていくのは、自身嬉しく思っている。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	弊社でも取り扱う商品のほとんどが、原材料や物流費の高騰で値上げとなった。値上げ率も10～15%と大きく、心苦しい限りだ。
	小売業	コロナ禍での行動制限がないことで、年代を問わず先行層・富裕層中心にコト消費に起因した消費行動の動きは高まりを見せているが、ボリューム層、特にシニア・シルバー層と生活防衛意識の高まりからミドル世代の来店が鈍化している。ハイブランド・コスメ・食料品への支持は高く、コロナ禍前の水準に回復しつつあるが、衣料品・服飾雑貨は同水準に大きく乖離している。
	スーパー	以前にも増して、他社のチラシを持って来店し、商品の価格を確認しながら、買物している姿が見られる。今後も続くと思う。
	スーパー	プレミアムウイスキーを探しての来店が増えている。
	コンビニエンスストア	茨城空港の国内線全便運行継続。
	酒・各種商品小売業	既に新型コロナウイルスの感染を経験した人が、大したことがなかった様子で、新型コロナウイルスを気にせず行動をする人が多くいると思う。
	楽器販売	逆に低価格帯の商品の動きはちょっと活発化しているので、その辺りに活路を見出したい。
	自動車販売店	物品の値段が急激に上がりすぎている。また原材料、製品がすぐに入荷、入手できず大半の物が長納期になってきている。
	農産物直売所	生産者が納品の際、生産資材の値上がりが半端ではなく、これから売価をかなり上げなければやっていけないと、毎朝のように話している。
	日本料理店	旅行客が増えている。
	都市型ホテル	法人や団体関係は動き出しているものの、まだまだ感染状況によりキャンセル等は発生している。
	観光型ホテル	週末や祭日などは人出が多くなるが、それ以外は以前に比べて少ない気がする。
	旅行代理店	リアルで開催される会議やイベントが増えてきた。
	バス運転手	職場では、新型コロナウイルス感染拡大以降の従業員の新規採用停止と、退職者の増加、従業員本人・家族の感染または濃厚接触者等から出勤できないことによる、人手不足が深刻。同業他社ではバス運転手が確保できず、平日にもかかわらず休日ダイヤで運行せざるを得ない状況も出てきている。
	タクシー運転手	夜の繁華街は悲惨な状況にある。企業が、夜の飲み会について、もう少し規則的な事を緩めて頂きたい。
	タクシー会社	徐々にではあるが、夜間の飲食街の仕事も出てきているので、乗務員の就労時間も長くなってきている。
	タクシー会社	客の利用頻度が減少傾向にある。週4回程度の利用が週2回程度に減少し、出来るだけ支出を抑えるようにしている。物価上昇、燃料高騰、円安等の要因により生活スタイルを変えざるを得ない状況になって来ている。未来が見通せない現実があり、無駄な出費を抑えて貯蓄するようにしている。企業にあっては、経費削減を強化しており、必要最小限の資金運用に務めているので、交通費等も削減し、通信設備を活用した運用に改善している。
	道の駅	新型コロナウイルス等で免疫力アップなどの健康志向で、健康に良いものはこれからも消費が伸びると思われる。
	レジャー施設	燃料費の高騰や、原材料費の値上げによる、商品価格への転嫁等が発生しており、今後も懸念される。他県の同業者も値上げを実施しており、今後検討していかねばならない。
	レジャー施設	多くの人達が給与は上がらない、円安、光熱費や物価の高騰により、日々の生活に大きく影響を受けていると思われる。
スーパー銭湯	今年の春頃は値上げをしても致し方ない感で、売上げに影響が出た等の話を聞かなかったが、夏以降は値上げをして、苦戦している話を身近な経営者から聞くことが増えた。感染拡大に伴い、スタッフ内での感染者が増えて営業が出来ないなどの話もあった。	
ゴルフ場	物価高と納期の遅延。	
ボウリング場	新型コロナウイルスがなくなるまで、昔のようににはならないと思う。	
住宅販売会社	身の回りも落ち着き、様子を見ていると思われる。	

企業	製造業（印刷・同関連業）	以前までのコロナ禍より、社会全体が動いてきているように感じる。
	製造業（窯業・土石製品）	物価が上昇しており、必要なものは仕方なく購入するが、余計な物に金をかけないような気がする。
	製造業（一般機械器具）	ガソリン、電気、食料品、生活に必要なものの値段が値上がりして、経済的な負担が増えている。
	製造業（精密機器）	まだ宴会はそれほど多くない。
	製造業（精密機械器具）	全体的に受注高は昨年度よりも良いくらいである。ただ、部品欠品のため完成品とならず、出荷出来ないのが倉庫に積みあがっている状況。これはあまり見たくもない光景である。
	建設業	短期から中長期的にみて現状の景気が続くのではないかと。具体性有る景気刺激策が観られない。
	建設業	お祭り、花火大会など娯楽などが復活してきたと思う。
	運輸業（道路貨物運送業）	トラックの高速道路の利用が増えたように思われ、首都圏の高速道路が混雑している。2024年問題に向けた時間外労働の削減に伴い、高速道路の利用が増えているものと思われるが、通行料金が経営を圧迫していくことが予想されるため、基本料金の値下げや、深夜割引時間の拡大等を業界全体で投げかけていくことが必要である。
	金融業	商業地内における高層マンションの建築が進んでいる。
	不動産業	個人消費に関しては、より大きな買物については慎重な行動が目立ち、結論を先送りする傾向も見られる。今後は、状態の良い中古住宅物件の価格推移に注目している。
情報通信業（情報サービス業）	新卒採用がどこもかしこもインターンの争奪戦になっていて、各企業とも状態は悪くないのだろうと思われる。以前と較べると採用・教育にかかるコストは計り知れない。	
雇用	求人広告	電子決済が普及していると感じる。
	公共職業安定所	宿泊・飲食サービス業の数値が好調。最新の指標（令和4年8月分）で、新規求人数が前年同月比+61.8%。新型コロナウイルスの感染状況は不安定であるが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が行われていないこと等が理由だと思われる。
	学校就業関係者	身近な日用品の値上げが続いているため、消費を抑える傾向が強くなると思われる。職場においても、光熱水量の高騰について対応が求められている。
	求人开拓員	コロナ要因、ロシアのウクライナ侵攻要因、円安要因が絡み合い、ビジネスシーンでのエネルギー費の高騰、輸入原材料費の値上がり、実生活での光熱費、食料品等諸物価の値上がり、株価の低迷等々、景気押し下げの材料が数多くみられ、身の回りを見る限り景気の悪化は避けられないものと感じている。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	消費者・事業者支援として市のプレミアム付商品券事業が、近く販売開始となる中、加盟店登録やクーポン券購入申込も徐々に増えてきており、年末年始にかけて市内の活気が少しでも回復できるようであればと思う。また、スーパーマーケット跡地への新スーパーマーケット等（複合施設）の開業（順次）に伴い、市内の人気スポットとして新たな賑わい場所になることを楽しみにしている。
	コンビニエンスストア	価格高騰に対し敏感になっており、今まで以上に価格への関心が高くなっている。
	コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの影響や物価高騰のため、客数が減少している。
	衣料品販売店	祭事、イベント等が各地で開催されるようになり、消費マインドが変わると思いきや物価高で一般家庭は苦しくなってきた。食料品含め余計なものは購入しない雰囲気。店の売上げも当然落ち込んでいる。在庫も回転せず商品の仕入れを抑えているのが現状だ。
	農産物直売所	景気ではないが、コロナ禍の影響で主要取引先2社が潰れた。理由は、コロナ禍以前の状況にはもう戻らないとの判断だそうだ。
	小売業（薬品店）	今まで混んでいて入れなかった店も並ばずに入れる。
	小売業（食品）	同業者は皆、同じ事を言っている。
	小売業（書店）	電気代の上がり方がすごすぎる。
	洋食食堂	10月から最低賃金がまた上がる。零細な事業者には、物価の値上げと共に頭の痛い問題だ。一律の値上げはどうかと思う。
	日本料理店	空き店舗が増えた印象。
	海鮮料理店	客数が多くても、1人単価が安いので、心身ともに疲れる。
	運転代行	物価の値上げが特に目立ち、日常生活にも大きな影響を与えていると思う。
	タクシー運転手	この業界は昔から、作業形態に変化はない。景気に関係なく、強い業界にしていけないと生き残れない。新型コロナウイルスもだんだんと進化している。この業界も進化していかないと将来性がない。
	レジャー施設	10月に最低賃金も上がり、引き続き物価高で、値上げ値上げと厳しい状態である。
	理・美容店	材料費の値上げが多く、基本料金の値上げを検討している。
	クリーニング店	あまり気にならなかったが、最近買物に行って、物が高くなったと感じるようになった。
住宅販売会社	資材の高騰で、見積り金額の調整が難しくなっている。	
企業	農業関係者	最近、物価高の影響で、長期間保存がきく安い品物があれば大量に買って行く客の光景が非常に多く見られる。
	製造業（その他）	東南アジアに出張に行ったが、コロナ禍の停滞分の取返して、今後数年は、受注が大きく伸びるだろうと複数社が言っていた。すでにホテルやマンションの建築計画があるとのこと。
	製造業（食料品）	茨城水産試験場の本年度イワシ、サバ類等秋漁予報によれば、イワシ、サバ類共に水揚げ量は前年を上回るが、漁獲がまとまるのは11月下旬以降との想定であった。資源量は増加している様子にて年末頃には、前浜水揚げの増加で地域の活況を期待している。
	製造業（電気機械器具）	どの業種を見ても、まだまだ厳しい状況かと感じる。
	製造業（金属製品）	自動車関連の受注については、今後も増えない。
	建設業	量販店の価格が上昇している。
	運輸業（道路貨物運送業）	周りの同業者も厳しいようで、面接希望のドライバーが多くなってきている。
	運輸業（道路貨物運送業）	業績は前年比で微増ではあるものの増加しているが、燃料費の高騰が利益を圧迫している。
	金融業	半導体等の影響で部品の納品が遅れており、工期が遅れている業者が多数散見される。
サービス業	あらゆる業種において資材、エネルギー高騰への対応に苦慮している客が多く、値上げの動きが活発になってきているのを実感する機会が多くなった。現状における社会の値上げへの理解は進んできていると思うが、値上げをすることによるデメリットのフォローに苦労している客が見受けられる。	

(4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	値上げ前の買いだめの動きは見られない。
	農産物直売所	最近の物価高の影響は大きいものであり、消費防衛に走る傾向にあると思う。
	小売業	施設屋内で夏休みの子供向けイベント等を再開、客の反応は好意的。また行政やNPO団体のイベントやPR活動も、3年ぶりに再開している。例年のお祭りやイベント・学校行事等の再開が、地域経済回復のバロメーターだと感じる。コロナ禍に即した客の行動様式の変化として、土日祝日の夕方6時以降は買物後に外食せず、早めに帰宅する傾向が継続している。施設滞在時間も短く、特に飲食店舗は宅配やテイクアウトメニューを継続して強化している。
	小売業(生花店)	6月以降、30代から40代とみられる若い方がやっている「メダカ販売所」が急に増えた。少額で、投資金額の少ない副業に手を出す家庭が増えたように思える。
	衣料品販売店	私たちの年代は、周りの人は少しの金はあるし、自由な時間もある。少しはゆとりがあると思う。
	小売業(米穀)	駅前で自転車預り所をしている方の話。1日の駐輪料金(150円)を踏倒す人が多いらしい。景気が悪いのか、コロナ禍で心が荒れているのかと言っている。そう言えば、当地でも駐輪場に停めない自転車をたくさん見かけるようになった気がする。
	和食食堂	団体客がコロナ禍前までのようにあれば、売上げは上がる。宴会・法事が全くない。
	和食食堂	飲食店において、ボリュームの割に価格が安いと感じられる。しかし、その分接客対応の人数が少なくなっているのか、案内までの時間、料理提供までの時間が長い。一部の業態では、かなり無理があるのではないかと。
	都市型ホテル	宿泊では、インバウンドの予約があり、最近、宴会でもコロナ禍ではなかった立食料理の宴会が入ってきている。多少なりとも戻りつつあるのかも知れない。
	都市型ホテル	本来だと、すでに忘年会や新年会の問合せが多い時期だが、まだ新型コロナウイルスの影響で、予約の入り状況があまり良くない。現在、感染者も減少しているので、これからは期待したい。また、訪日外国人に対する、ビザの免除も10月からとなるため、そちらも期待したい。
	都市型ホテル	景気が良いとはとても思えない。徐々に物価上昇の気配が感じられる。特にガソリンは相変わらず高い、コンビニ弁当もさほど美味しくないのに値段は高い。スーパーでは廃棄が嫌だから、惣菜など早めに売り切ってしまう。だが、コロナ禍なのに、居酒屋やスナックなど遅くまで客がいるようになった。また、タクシードライバーの数が少なくタクシーを手配するのに時間がかかる。
	タクシー運転手	締める時は締める、使う時は思い切り使うと言った感じで、またいつどうなるか分からない状況。普段はあまり消費しないで余裕を持たせて、更なる余裕が出来たら大きな買物をしたり、遊びに回しているのではないだろうか。
	タクシー会社	新型コロナウイルスに対して、周りがより気にし始めた気がする。
	サービスエリア	8月のお盆を過ぎてからも、末日近くまで家族連れの客の利用が見られた。台風や猛暑等天候要因もあるが、全般に施設利用の分散化が感じられる。GWも似た傾向であった。
	ゴルフ場	上場企業などの顧客(会員)の予約が、活発になっている。コロナ禍にあっても、比較的安全なゴルフへの要望が強いと感じる。これに伴い、法人の接待需要が増していることを鑑みると、全体としては景気の上昇基調にあると思える。
	ゴルフ場	これだけ、生活に必要な物が不足、高騰するのは近年ないと思う。とても厳しい状況だ。
	設計事務所	政府は景気対策と言っているが、住宅産業の現実を知らない。住宅ローンの審査基準を緩くして、誰でも住宅ローンで借入ができるようにするのが、住宅着工数を上げる対策だと思う。
	住宅販売会社	弊社の不動産の小口証券化が販売開始3分で完売するなど、貯蓄から投資への動きがでてきているように感じる。

企業	農業関係者	諸外国の進展と国内経済の低迷、ロシア・ウクライナ情勢がきっかけと思われる、各種生産物・資材等の高騰から、農業者においては生産物への価格転嫁ができない（青果・米穀）中、経営の悪化が危惧される。生活面においても給与水準の上昇が見込まれない中、消費の差し控えが生じているのではないかとと思われる。	
	農業関係者	現在、何れの分野においても言えることではあるが、特に農業資材の高騰が止まらない。	
	製造業（窯業・土石製品）	石材に関するすべてのものが値上がりしている。	
	製造業（飲料）	徐々に工場へ来場する客も増えていることから、外に出ることを意識する人が出てくると、景気も回復していくのではと感じている。	
	製造業（印刷・同関連業）	地域の祭りやイベントなど開催されるものが出てきた。地域経済にとって好材料に思える。	
	製造業（その他）	材料が値上がりしていて、なかなか思うに利益が出ない。	
	製造業（窯業・土石製品）	燃料費が上がった。	
	製造業（窯業・土石製品）	新型コロナウイルスの第7波の感染者が高止まりしており、また、食料品をはじめとした物価の高騰が顕著となっている。	
	製造業（非鉄金属）	新型コロナウイルスの影響は生産にも影響しており、人員確保に苦慮している。	
	建設業	11月5日（土）に第91回土浦全国花火競技大会が3年ぶりに開催される。当社は50年以上にわたり花火大会関連工事に携わってきたが、担当責任者の高齢化により今年から工事を辞退した。安全と健康のためにはやむを得ないと思う。2018・2019年と連続して中途半端に終わり、2020・2021年とコロナ禍で中止になった土浦全国花火競技大会、今年こそ最後まで打ち上げ、5年ぶりの大成功で終わってほしい。	
	不動産業	原材料の高騰により、安価な物件の動きが良い。	
	建設業	資材の値上げ、部品製品の入荷の遅れ、品不足が多い、また納期が出ないなどの状況が続けば、景気は悪くなるのではないかと。	
	金融業	企業の設備投資計画において、半導体不足問題等による購入コスト上昇、納入期間長期化等の要因が重なり、タイムリーに実行することが出来ず、計画修正や延期するなど機会損失が生じている。	
	雇用	民間職業紹介業	車関係の生産回復は、まだ先になりそうである。
		求人开拓員	8月の時点で、スーパーの特売は旧定売価が特売価格になっている。例えば、ボディソープ 定売価248円特売198円が→特売価格248円、日常生活必需品に多い。つまり消費税以上に販促価格が上昇している（+125%）のが目で見られる特徴的なことである。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント	
家計	商店街代表者	男性客が来店しないので、在庫が減らない。	
	商店街代表者	スーパーに買物に行くと、かごいっぱいのお客が多く見られる。それに反して、小売店の利用客は年々、減少している。やはり値上げの影響だろうか。零細小売店の生きる道を模索している。	
	スーパー	円安や、様々な値上げの話題が多い。電気代の値上りによるコスト高が大きな課題である。	
	コンビニエンスストア	スーパーマーケットがリニューアルオープンした。	
	コンビニエンスストア	コンビニにおいても一部単価の安い商品の販売が伸びているため、やはり客の心理として商品単価にシビアになっているのではないかと考える。	
	自動車販売店	仕事がなく収入が減っているためなのか、離職の話なども聞こえて来る。企業も今の状況では値上げは不可能と考えられるので、物価上昇を抑える施策が必要なのではないかと思われる。	
	小売業（酒類）	景気のいい人とそうでない人。その格差がさらに大きくなっている気がする。	
	レストラン	現在の物価高や電気、ガスのエネルギー高等に、皆危機感を持っている。	
	日本料理店	仕入れコスト高をどのように商品に転化していくか。	
	食堂	いろいろな物が大幅に値上がりしているため、コロナ禍の自粛ではなく、金を使わないように外出を自粛している人も多いように思える。	
	和食レストラン	客の生活の中での行動が、特に夕方から夜にかけて変わり、出歩かなくなった。	
	旅行代理店	燃料代は一時期少し安くなったが、今は3か月前とほぼ同じだ。人件費を全体的に上げていくと消費が進み、値段が下がるとうれしい人がたくさんいると思う。商品の値段が上がらない対策として、ロシアとウクライナの戦争が終結してくれることを願う。	
	タクシー運転手	特徴的なことは見当たらないような気がする。	
	企業	観光型ホテル	今はじっと周りの状況を重視して、静かに控えている状態。活発に動き出したテレビの情報を見ていると、安心するのではなく、さらに不安を感じ、後にその不安が的中してくる。これで景気が良くなっていると答えられるのだろうか。私の今までのやり方が悪いのかと反省する毎日。40年もの経験が無になってしまったように感じられる。
設計事務所		コストアップでも構わずプロジェクトを進める会社と、手が出ず静観するしかない会社と、両極端と感じる。	
設計事務所		工事現場が増えているように感じる。	
農業関係者		食品等の値上げが続いていることから、買控えの傾向が強くと、景気が良いとは言えない。	
製造業（窯業・土石製品）		部品加工業者の一部が、引き続き臨時休業を続けており、依然として厳しい状況のように感じた。	
製造業（化学工業）		材料値上げの負担継続。	
製造業（窯業・土石製品）		9月1日から20～30%、国産製品の値上げを地元業界として、石材業界にアナウンスした。受け入れられることを期待している。	
製造業（窯業・土石製品）		近隣の市町村の市街地へ車を走らせると、シャッターの下りた店、空地、空家、空店舗が数多く目につく。他方、車の方に目をやると、高級欧州SUV車や日本の高級SUV車を少なからず見かける。今の日本は二極に分化するにつつあると思う。	
製造業（金属製品）		仕事量としては月単位で上下動が大きく、まったく落ち着かない。近隣の自動車部品製造会社は状況がかなり悪い様子だ。	
建設業		圏央道のインター周辺で公共工事や民間の工事が増加傾向にあるので、景気の後押しになれば良い。	
金融業		全ての業種において、原材料費の高値の影響は出てきており、今後においては今以上に上昇するか不安であるとの声が聞こえる。	
不動産業		安い中古物件を投資家が探している。近隣の県外からも複数人来社している。	
雇用		人材派遣業	求職者が少ない。
		求人広告	外食、お出かけ、仕事の発注、高速道路の利用など。何をしてもこれまで5回だったものが2、3回に。事によっては1回と数が減少をしている印象。金を出すことに対して、シビアになっていると感じる。
	人材派遣業	引き続き採用難のため、派遣料金の引き上げに応じる企業が増えてきている。	
	学校就業関係者	生活必需品の値上がりがかつてを圧迫している。	
	求人開拓員	人手不足を訴える企業（建設、生命保険、製造事業所）などから、応募してもらおうためのアドバイスをいただきたいとの相談があった。求職相談者の状況を見てみると一定数だが、高齢の方の相談も増えている。	